



ユニプレス株式会社 2023年度決算報告

2024年5月17日 代表取締役 社長執行役員 浦西 信哉



UNIPRES CORPORATION



2023年度決算について

2024年度見通しについて

2024-2026年度 中期経営方針

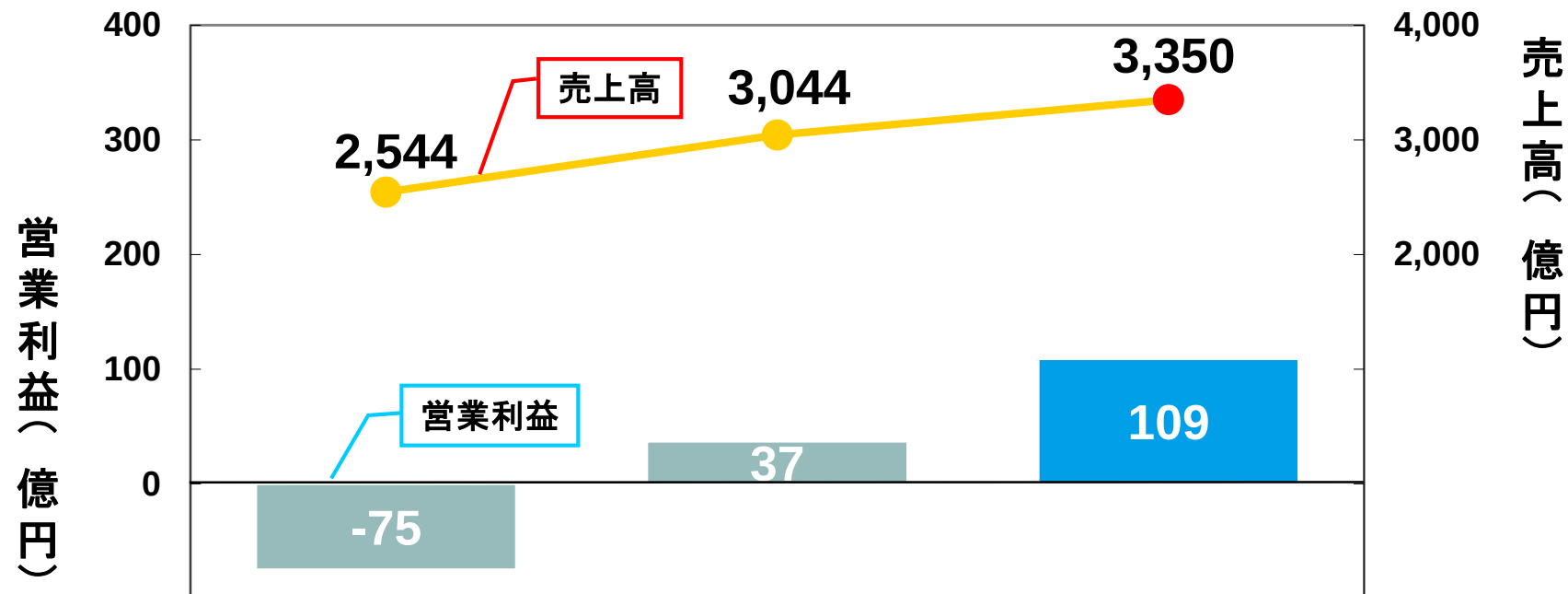


2023年度決算について

得意先の増産影響および為替換算影響等により、
売上高は3,350億円と増収。
営業利益は売上増の影響および合理化効果等により、
109億円と増益。

2023年度連結決算サマリー

- 売上高は、前年同期比306億円増収（10.1%増）
- 営業利益は、前年同期比72億円増益



	2021年度	2022年度(A)	2023年度(B)	(B)-(A)
売上高	2,544	3,044	3,350	+306
営業利益	-75	37	109	+72
経常利益	-47	50	125	+75
親会社株主に帰属する当期純利益	-79	24	52	+28

製品群別連結売上構成

(億円)

	2022年度		2023年度		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス部品	2,650	87.0%	2,933	87.5%	+283	+0.5%
トランスミッション部品	322	10.6%	361	10.8%	+39	+0.2%
樹脂部品	39	1.3%	39	1.2%	0	-0.1%
その他	33	1.1%	17	0.5%	-16	-0.6%
合計	3,044	100%	3,350	100%	+306	—

得意先別連結売上構成(日産自動車関連)

- 東風汽車向けの減少はあったものの、メキシコ日産、日産自動車向け等の増加により、
構成比は2.8%増加 (億円)

	2022年度		2023年度		構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連 小計	2,272	74.6%	2,593	77.4%	+2.8%
日産自動車	479	15.7%	588	17.6%	+1.9%
北米日産	422	13.9%	491	14.7%	+0.8%
メキシコ日産自動車	210	6.9%	403	12.0%	+5.1%
東風汽車	493	16.2%	376	11.2%	-5.0%
欧州日産自動車	265	8.7%	308	9.2%	+0.5%
ジャトコ(海外拠点含む)	192	6.3%	203	6.1%	-0.2%
日産車体	111	3.6%	115	3.4%	-0.2%
マレリ(海外拠点含む)	44	1.4%	52	1.6%	+0.2%
タイ日産自動車	20	0.7%	32	1.0%	+0.3%
ルノー日産インドニア/インド日産	30	1.0%	24	0.7%	-0.3%
鄭州日産	2	0.1%	1	0.03%	-0.07%

得意先別連結売上構成(日産自動車関連以外)

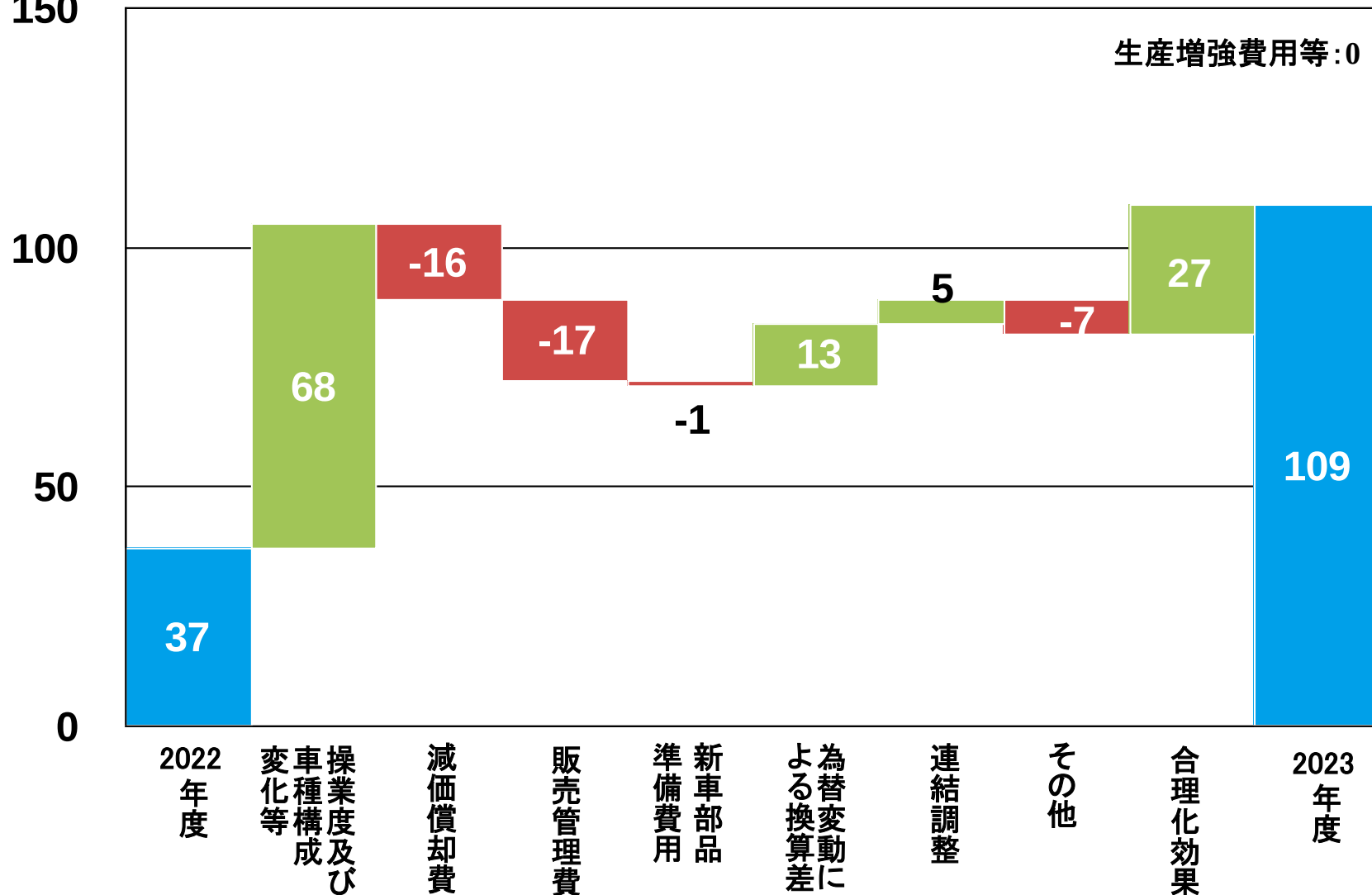
- メキシコホンダ、ルノー向け等の減少により、構成比は2.8%減少

(億円)

		2022年度		2023年度		構成比 増減
		売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連以外の得意先 小計		772	25.4%	757	22.6%	-2.8%
内)ホンダ	米国ホンダ	107.4	3.5%	121.1	3.6%	+0.1%
	メキシコホンダ	49.1	1.6%	31.9	1.0%	-0.6%
	本田技研工業	26.4	0.9%	26.8	0.8%	-0.1%
	インドネシアホンダ	16.8	0.6%	14.2	0.4%	-0.2%
三菱自動車工業(海外拠点含む)		120.6	4.0%	140.3	4.2%	+0.2%
ルノー	ルノー	95.6	3.1%	57.1	1.7%	-1.4%
	ルノー日産インディア	25.3	0.8%	11.8	0.4%	-0.4%
ステランティス		61.1	2.0%	66.7	2.0%	0.0%
マツダ	マツダ	25.6	0.8%	26.3	0.8%	0.0%
	メキシコマツダ	9.1	0.3%	15.5	0.5%	+0.2%
アイシン(海外拠点含む)		30.7	1.0%	42.8	1.3%	+0.3%
ジャトコ(日産以外)(海外拠点含む)		31.0	1.0%	30.9	0.9%	-0.1%
ダイナックス(海外拠点含む)		17.8	0.6%	16.6	0.5%	-0.1%
SUBARU		11.7	0.4%	13.0	0.4%	0.0%
スズキ(海外拠点含む)		5.5	0.2%	4.9	0.1%	-0.1%
武蔵精密工業		2.2	0.1%	4.9	0.1%	0.0%
豊田鉄工(海外拠点含む)		1.9	0.1%	4.4	0.1%	0.0%
NSKワーナー		4.1	0.1%	4.3	0.1%	0.0%
日野自動車(海外拠点含む)		3.4	0.1%	3.6	0.1%	0.0%
UDトラックス		2.4	0.1%	2.4	0.1%	0.0%
いすゞ自動車(海外拠点含む)		2.3	0.1%	1.9	0.1%	0.0%

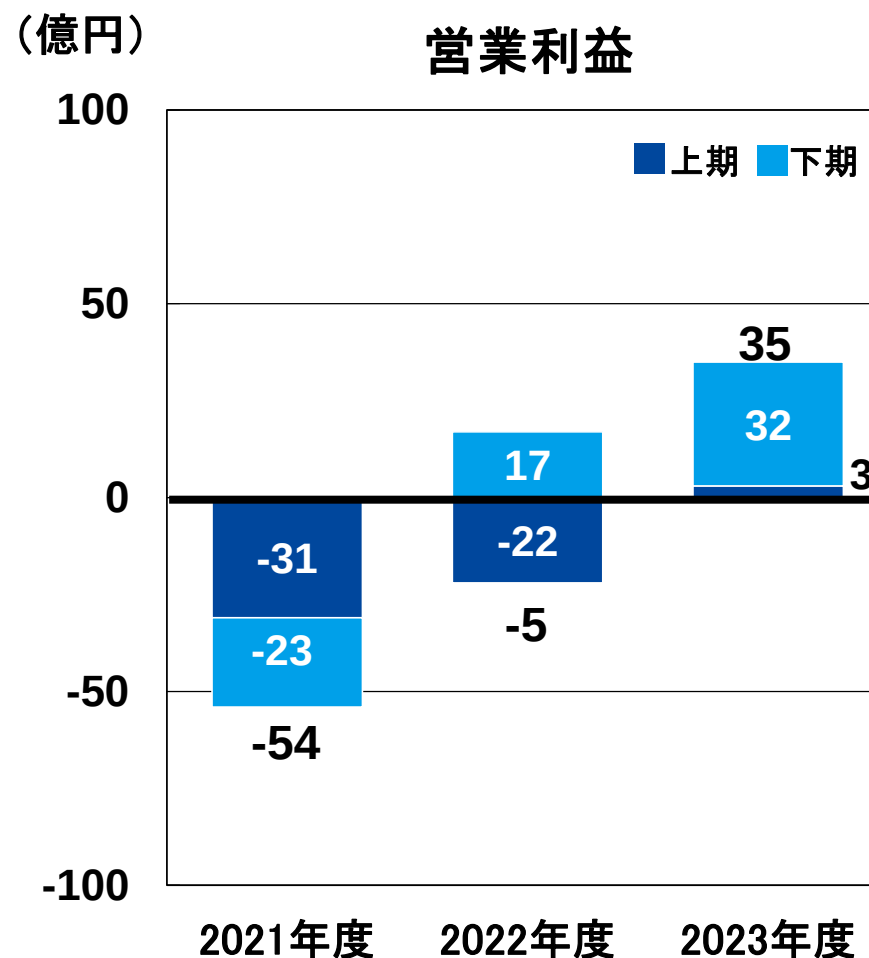
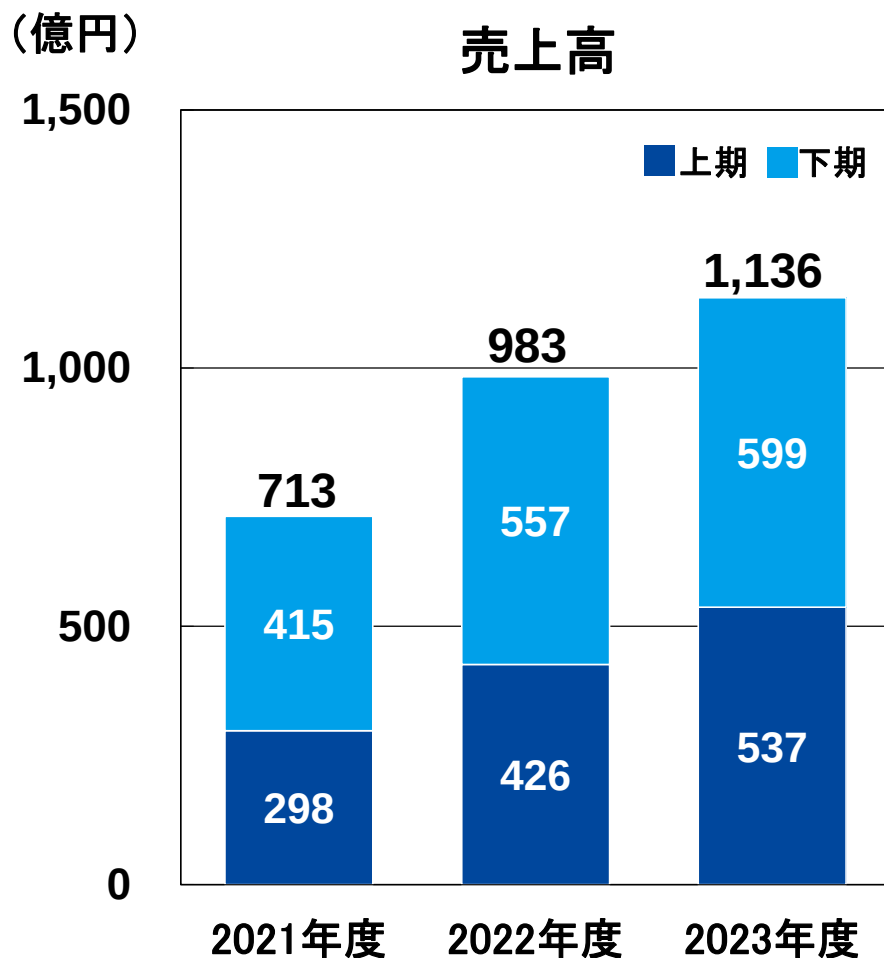
営業利益の増減要因

(億円) 150



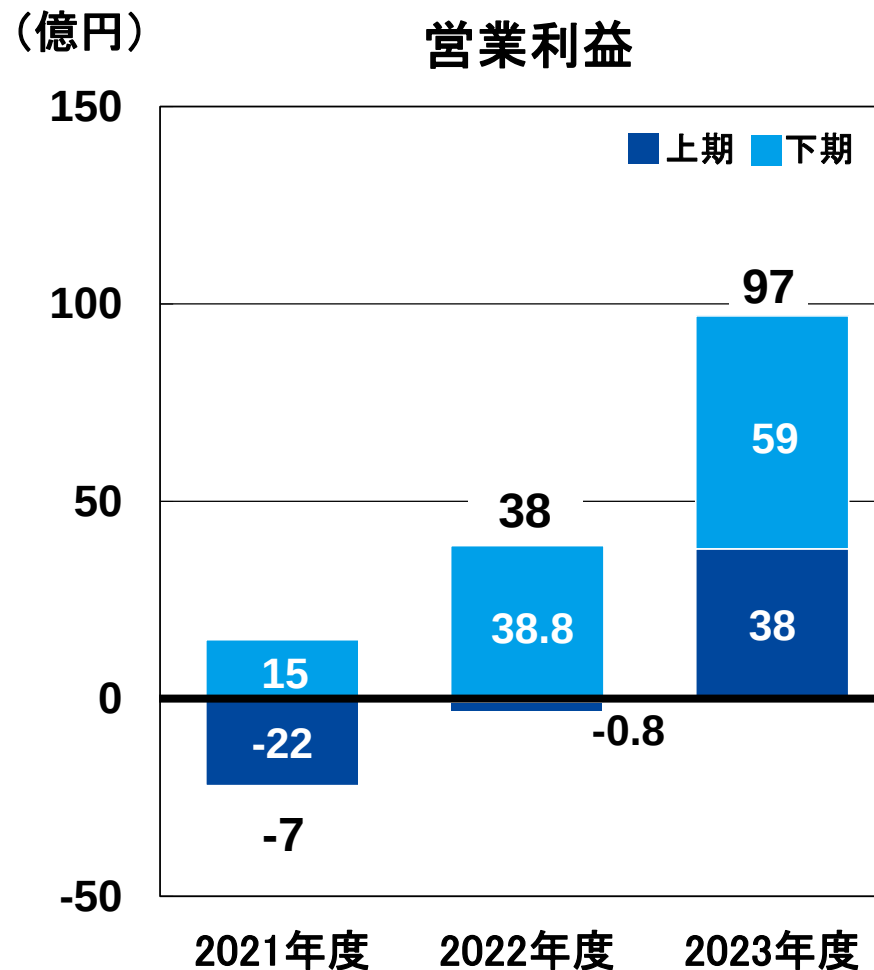
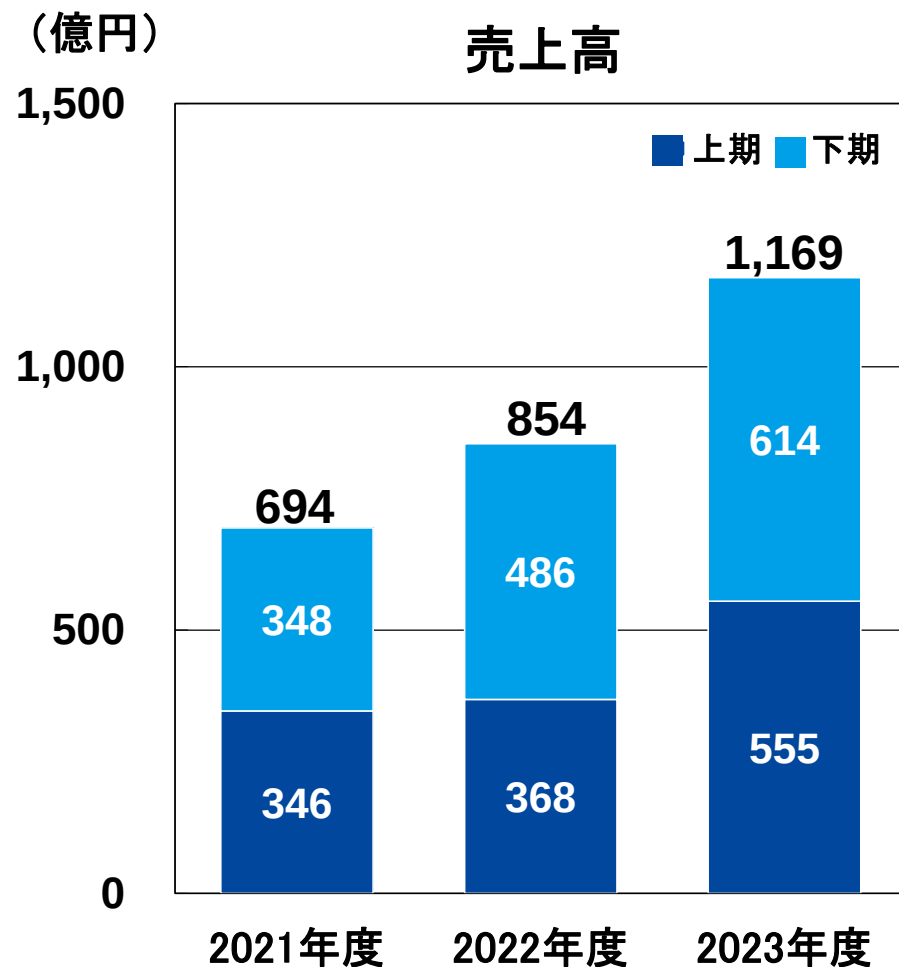
地域別売上高・営業利益(日本)

- 売上高は、得意先の増産影響等により、15.6%増収
- 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により、40億円の増益



地域別売上高・営業利益(米州)

- 売上高は、得意先の増産影響および為替換算影響等により、36.9%増収
- 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により、59億円の増益

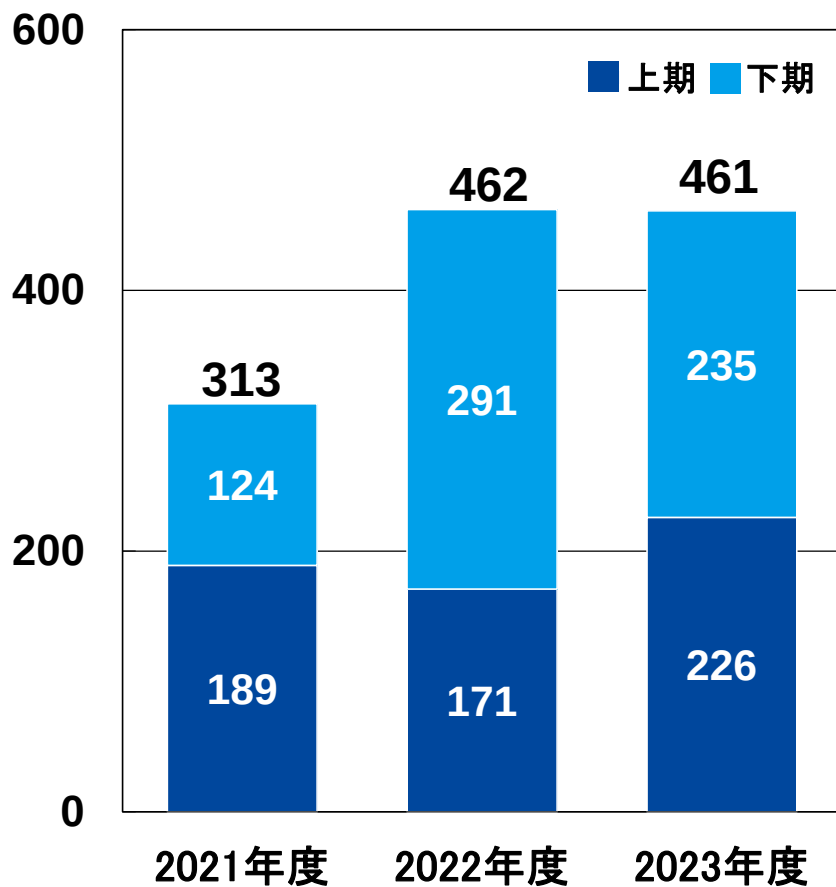


地域別売上高・営業利益(欧州)

- 売上高は、得意先の増産影響および為替換算影響等はあったものの、金型等の売上が減少したこと等により、横ばい
- 営業利益は、2億円の損失

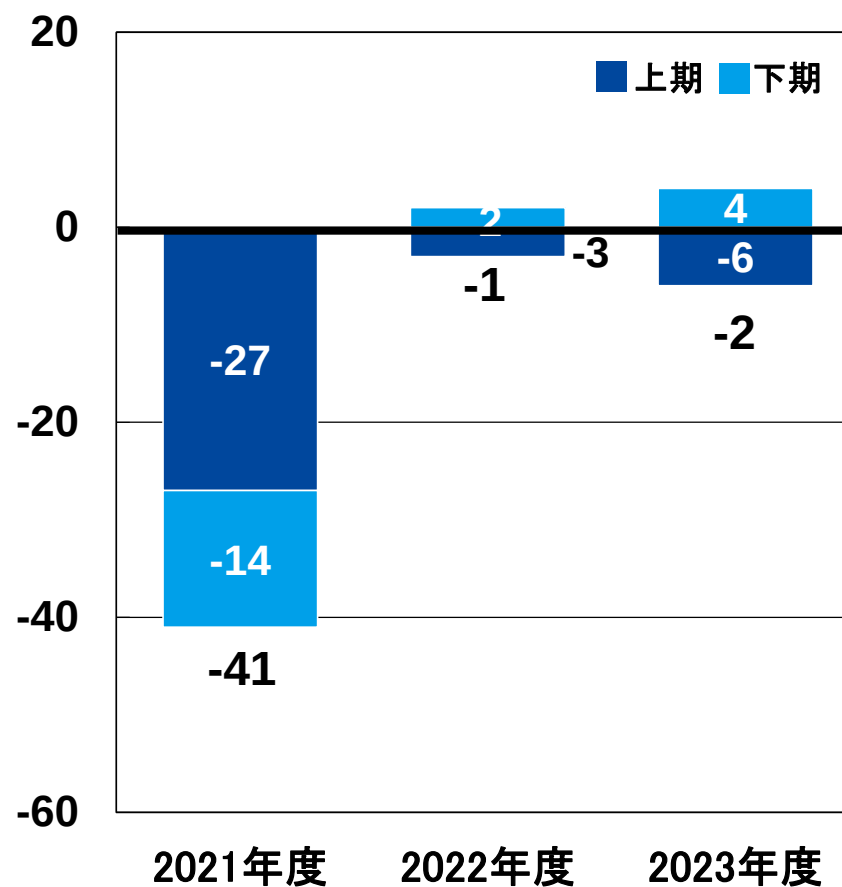
(億円)

売上高



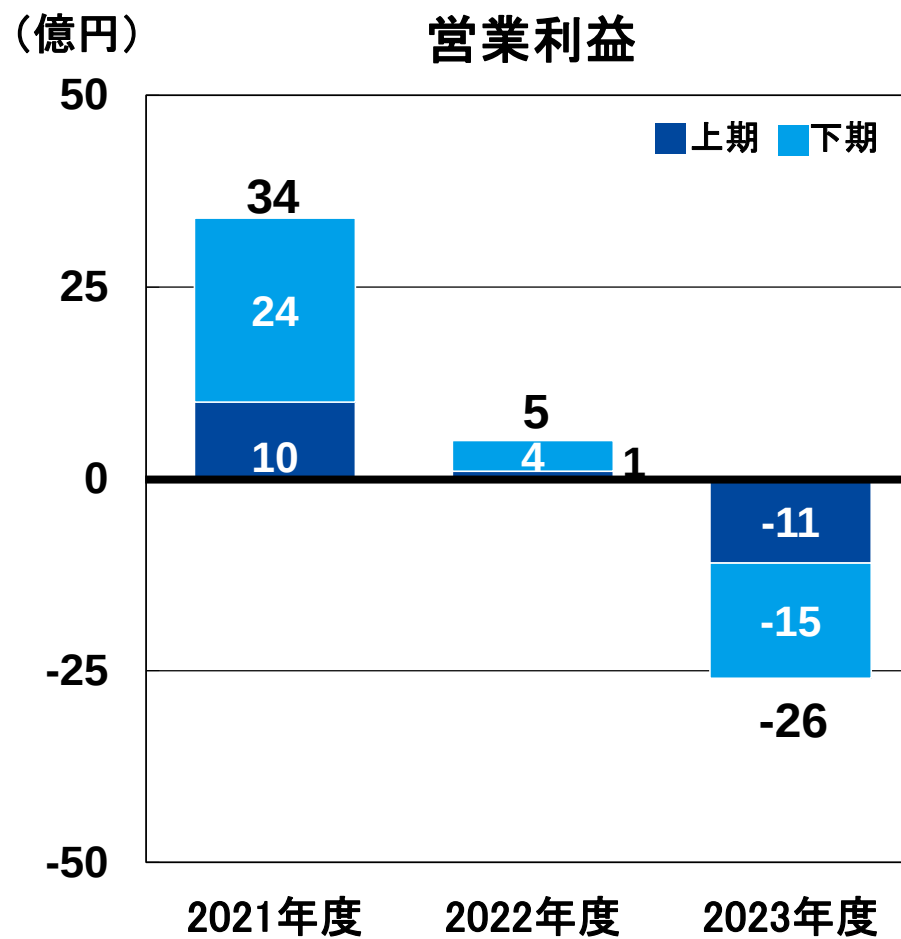
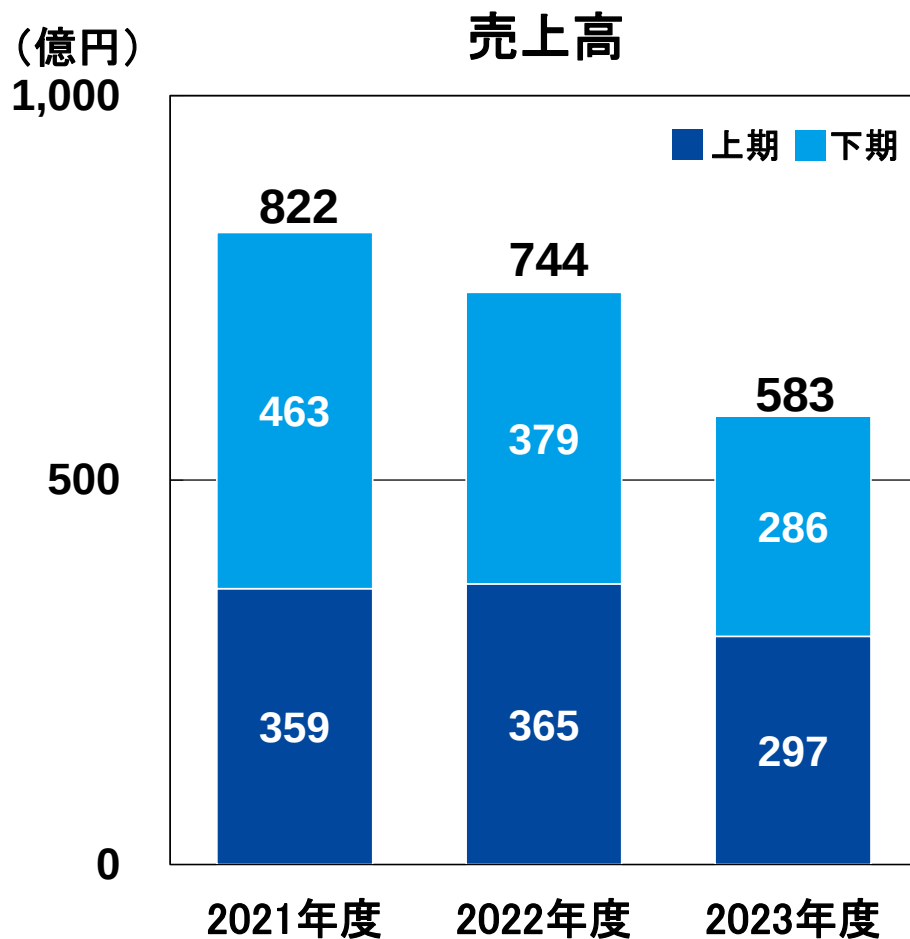
(億円)

営業利益



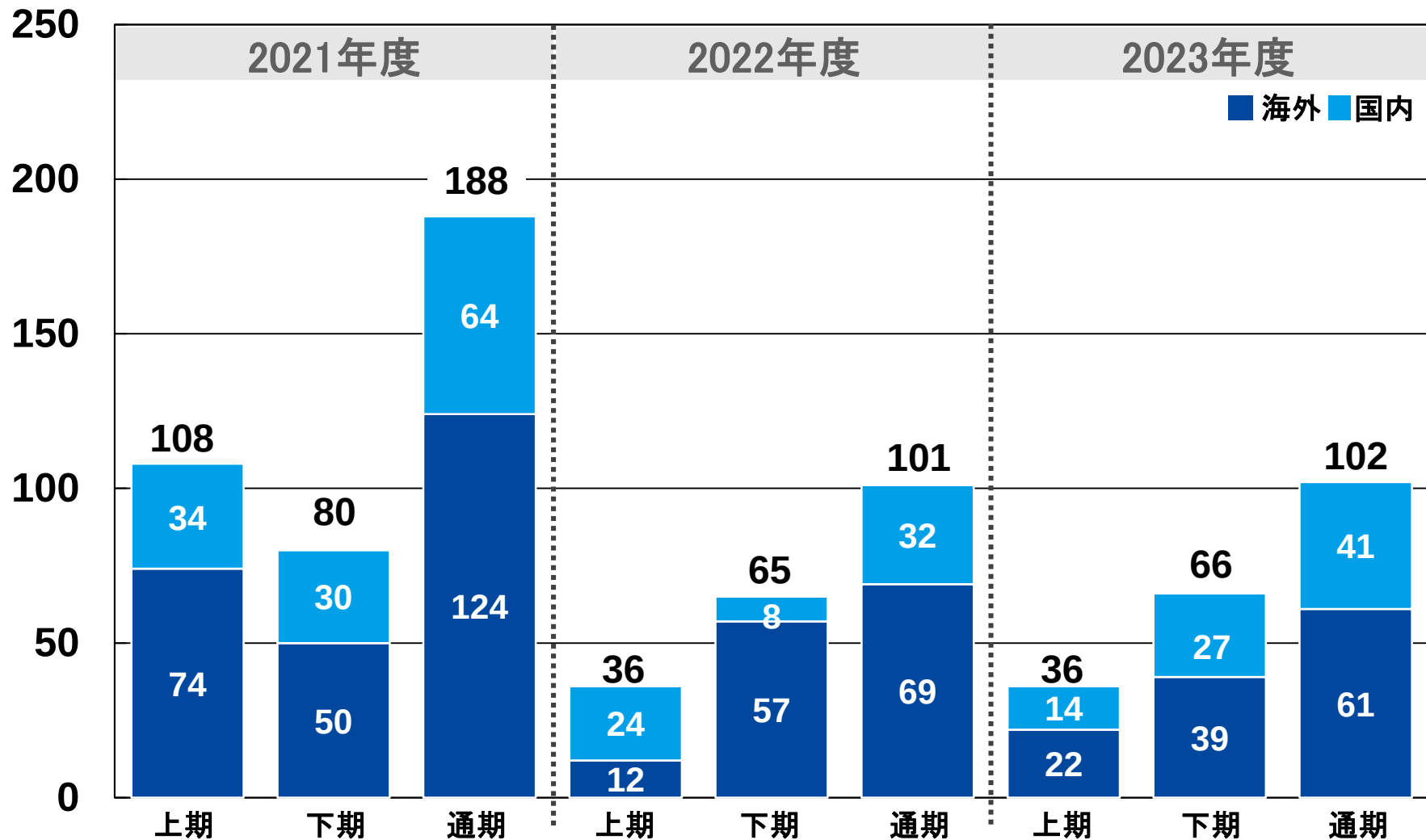
地域別売上高・営業利益(アジア)

- 売上高は、為替換算影響はあったものの、得意先の減産影響等により、21.6%減収
- 営業利益は、操業度影響等により、26億円の損失



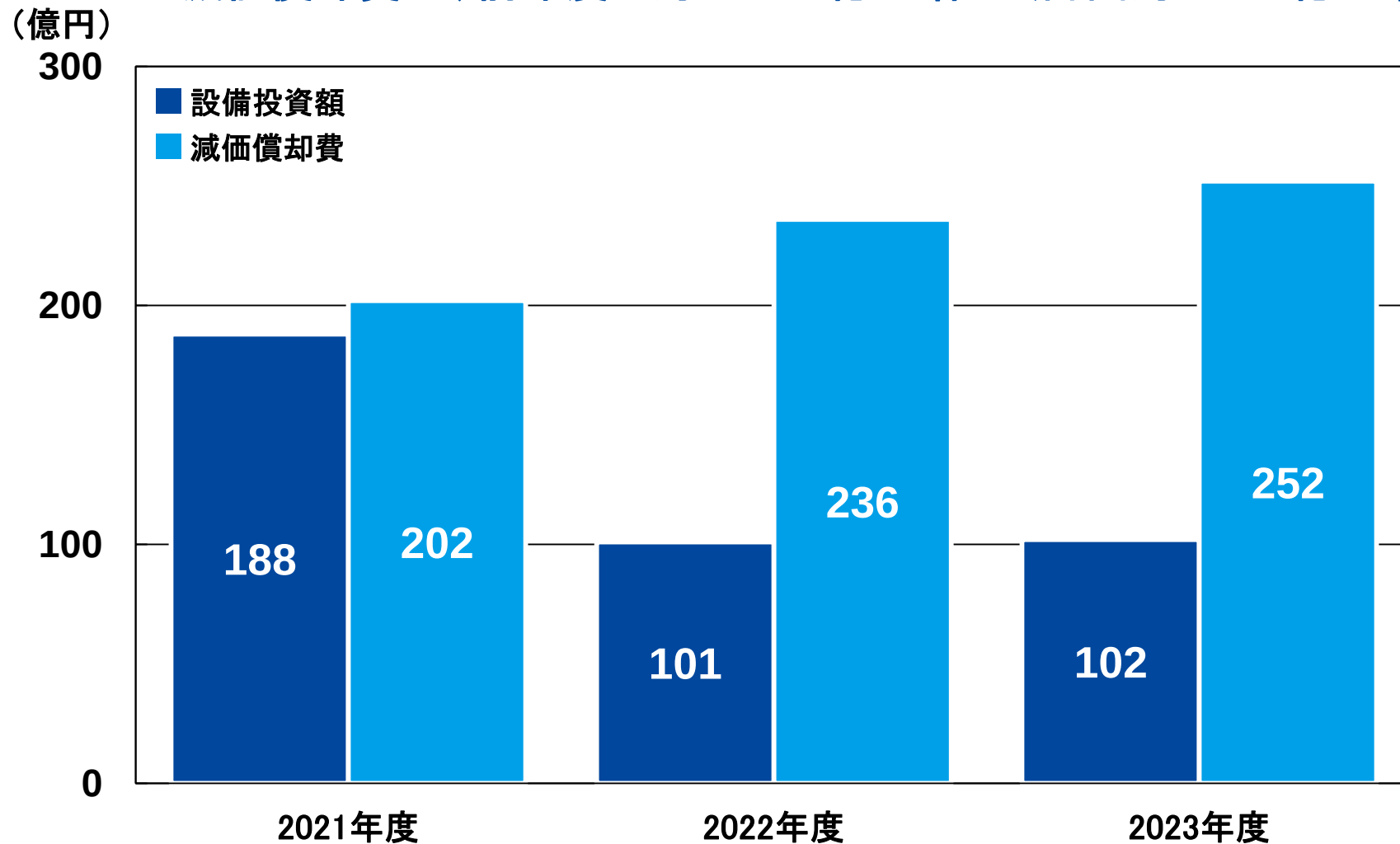
設備投資額推移

(億円)



設備投資額・減価償却費推移

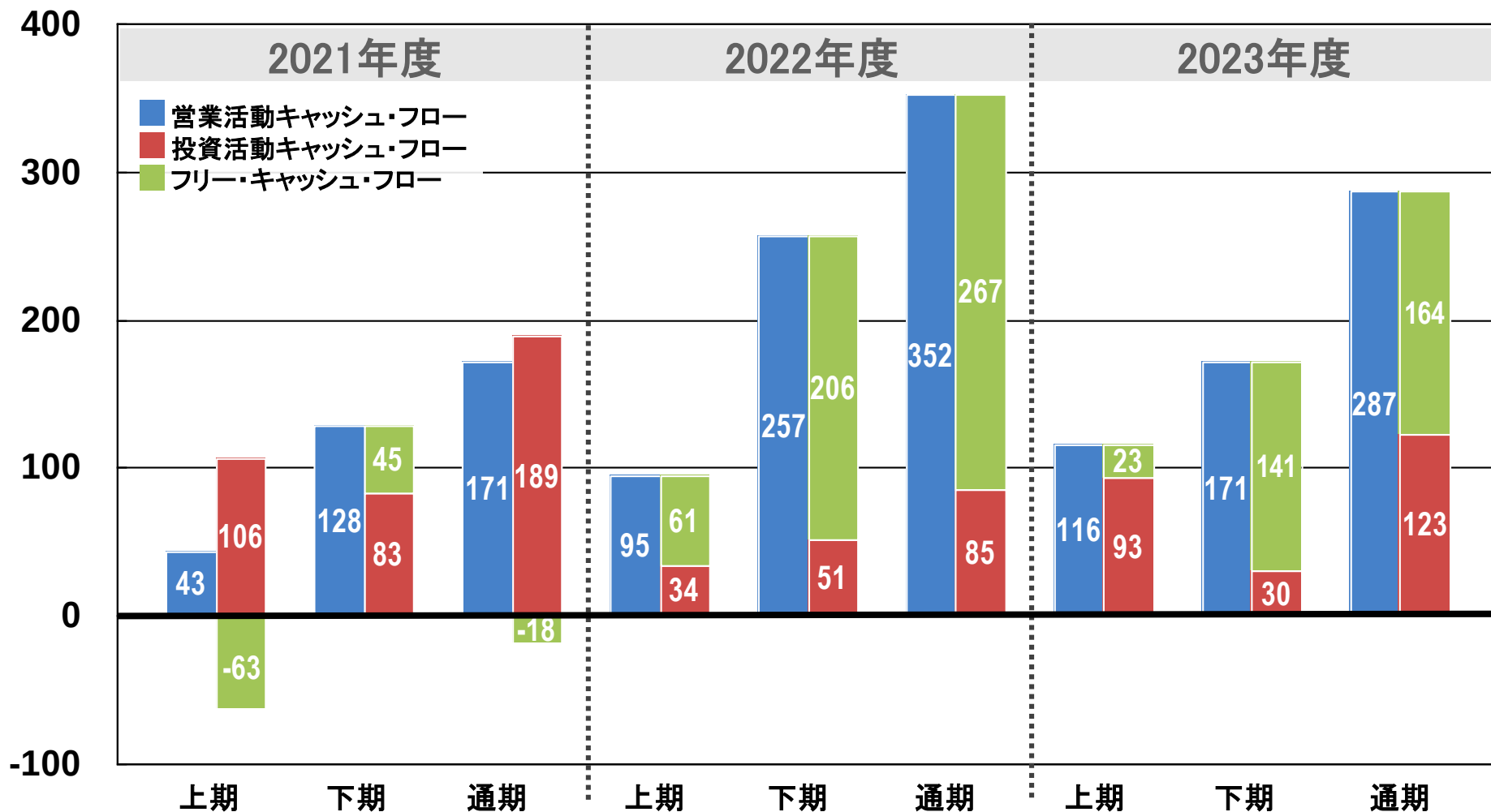
- 設備投資額は、前年度とほぼ同水準（計画対比 68億円減少）
- 減価償却費は、前年度に対して16億円増加（計画対比 24億円増加）



キャッシュ・フローの推移

- フリー・キャッシュ・フローは、164億円を確保

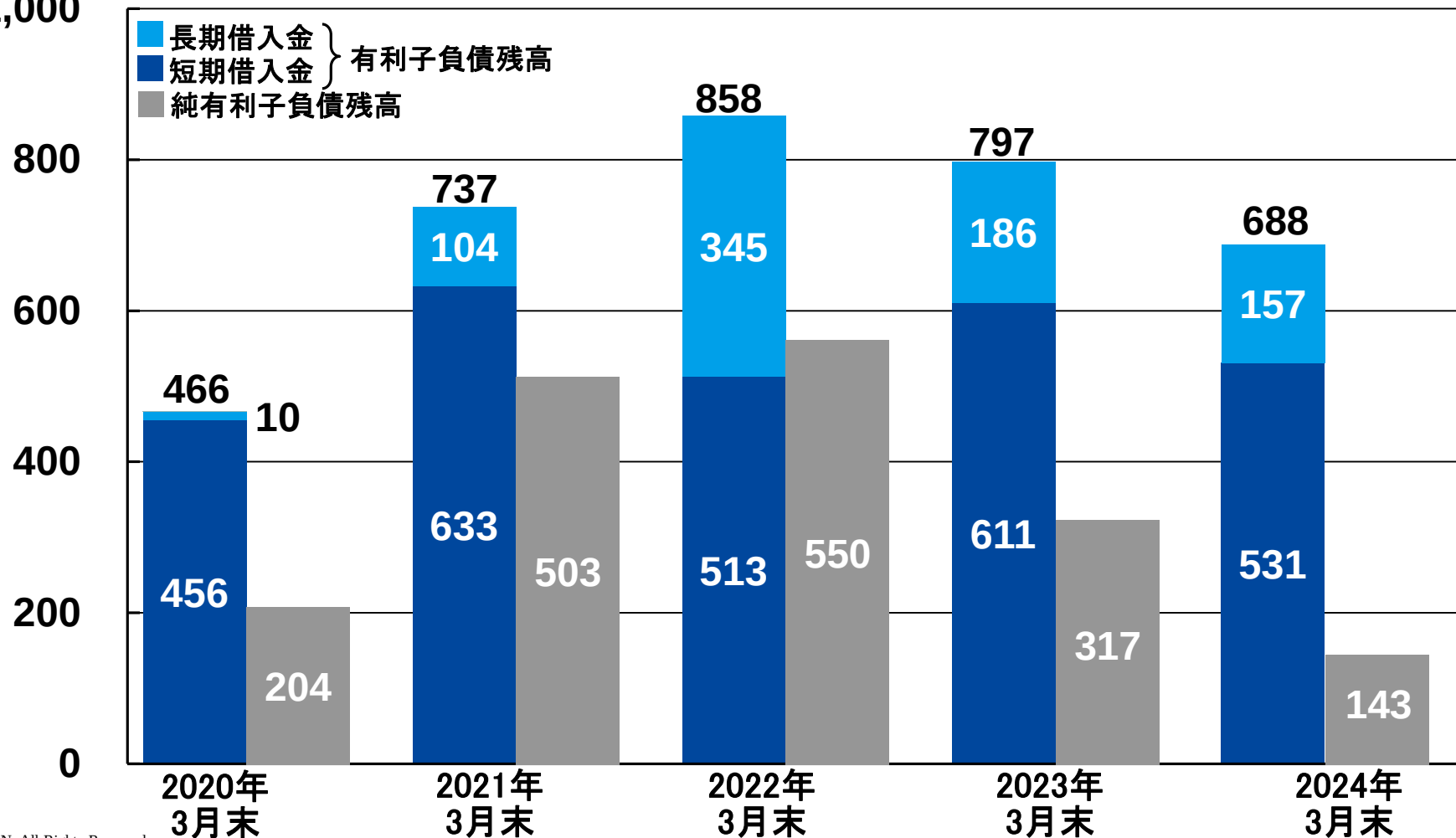
(億円)



有利子負債・純有利子負債残高の推移

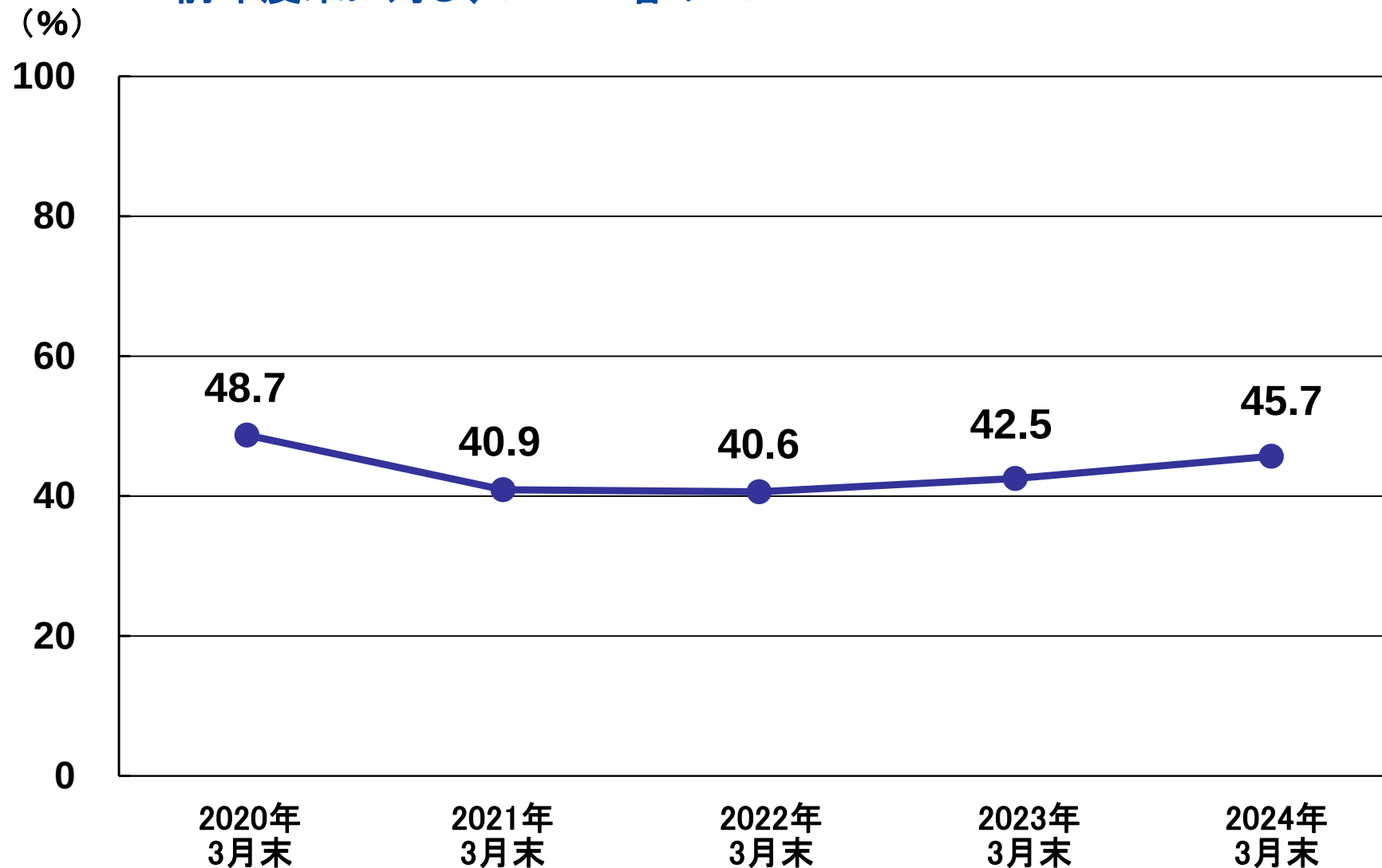
- 有利子負債は、前年度末に対して109億円減少
- 現預金を含めた純有利子負債は、143億円

(億円)
1,000



自己資本比率の推移

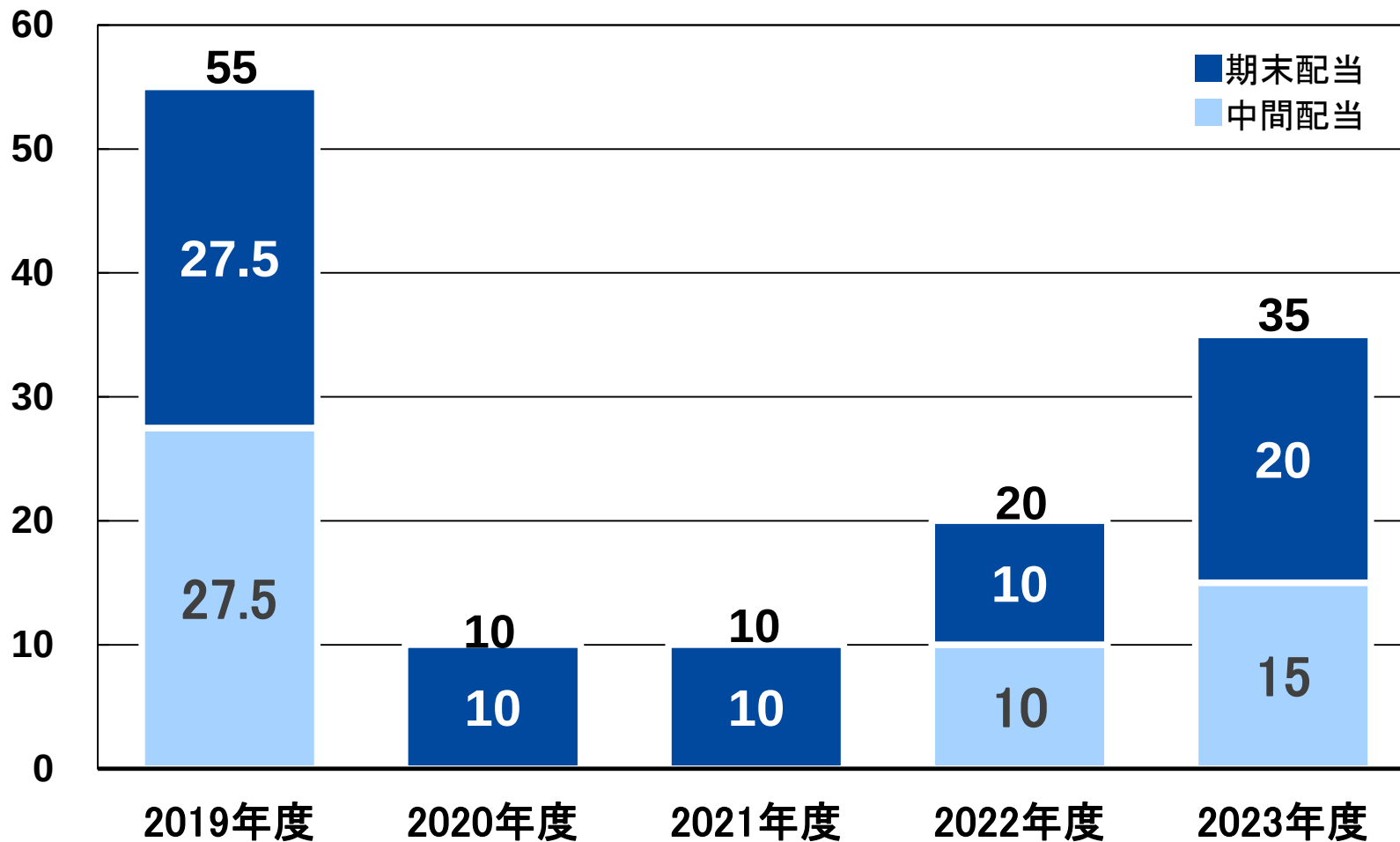
- 前年度末に対し、3. 2%増の45. 7%



配当金推移

- 今期の業績が堅調に推移したこと等を踏まえ、1株当たり35円に増配
(期末配当を当初計画の1株当たり15円から20円に増配)

(円/株)





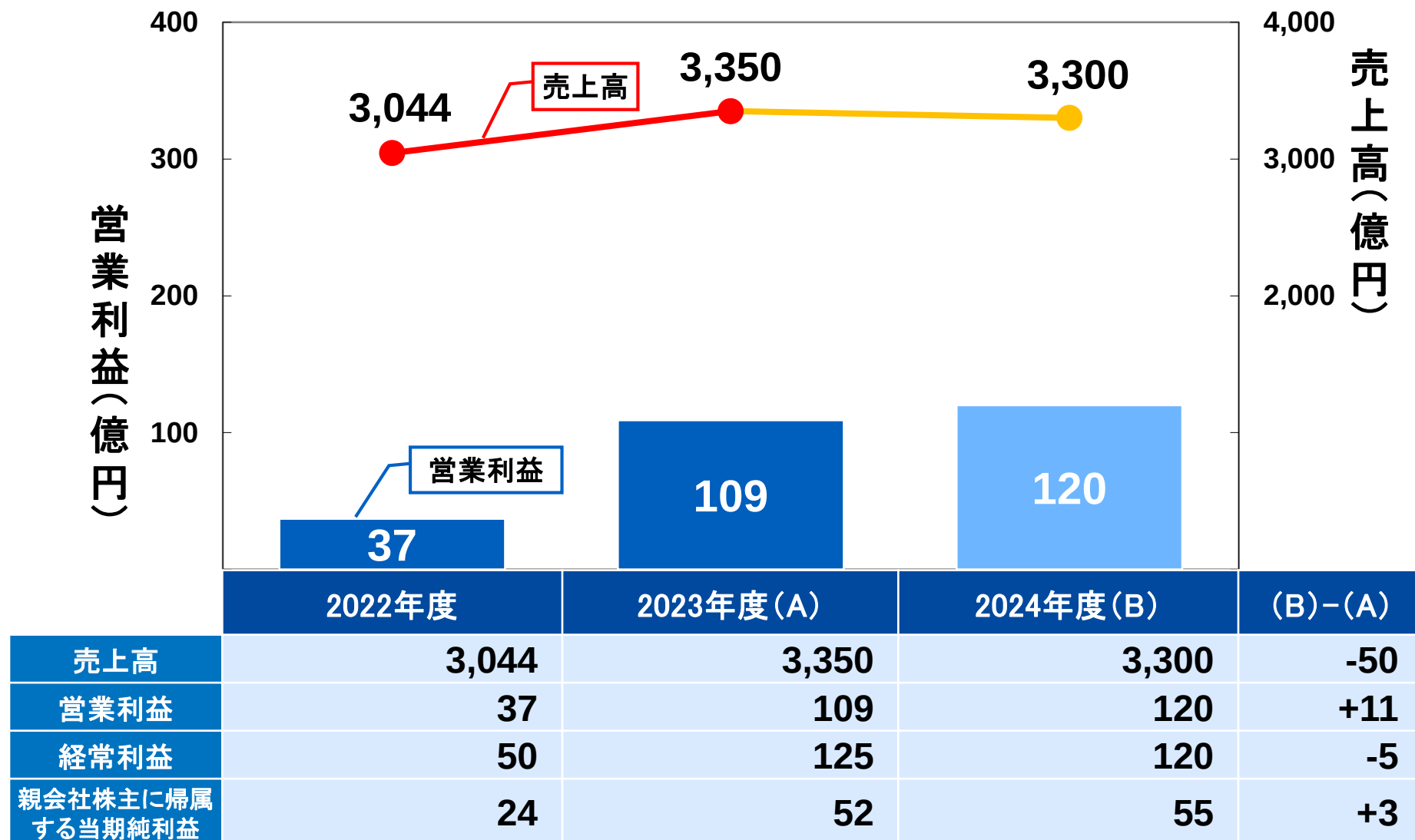
2024年度見通しについて

2024年度 連結業績見通しのポイント

1. 売上高は、得意先の減産影響等により、減収見込み

2. 営業利益は、合理化効果等により、増益見込み

2024年度連結業績見通しサマリー



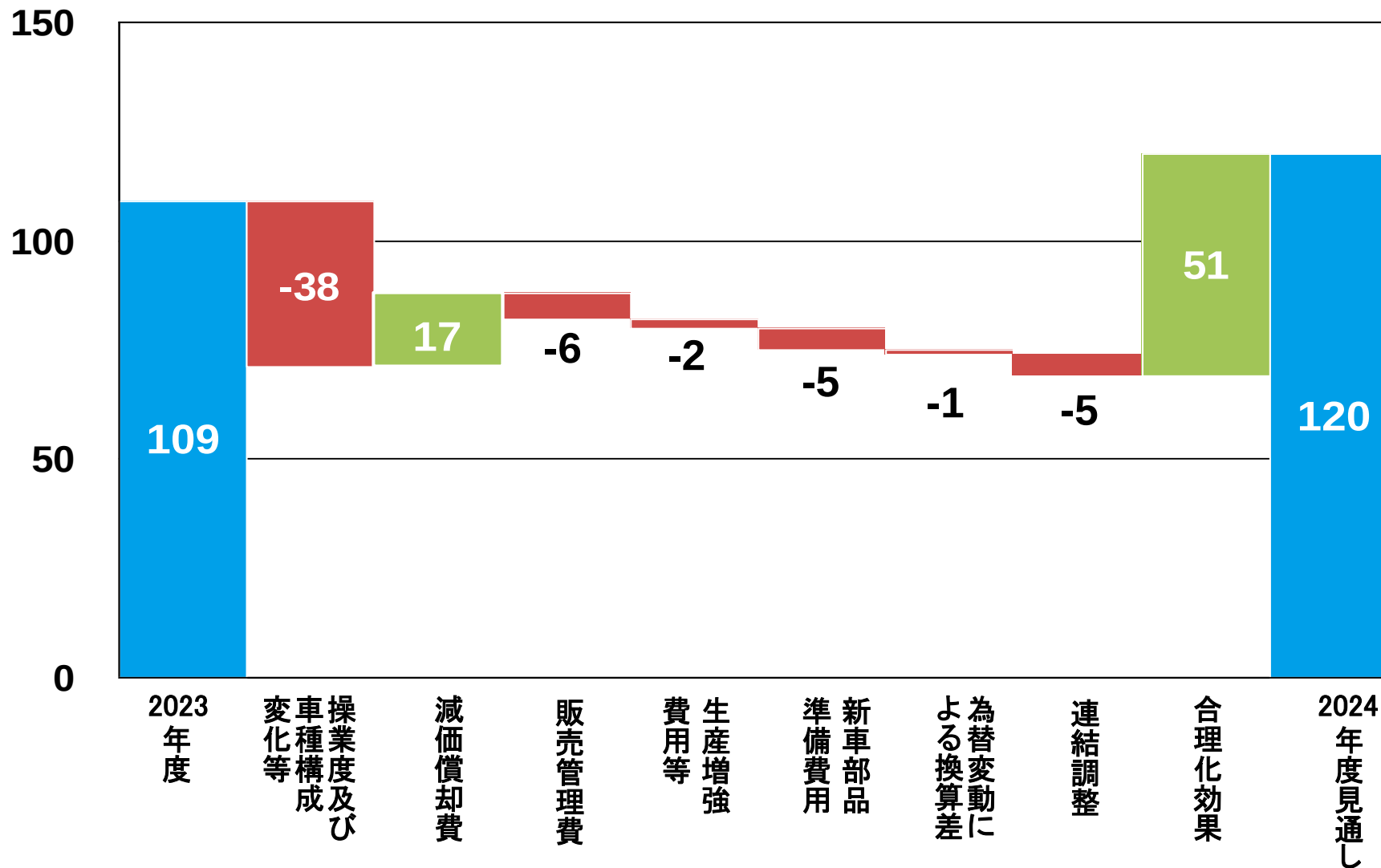
製品群別連結売上構成

(億円)

	2023年度		2024年度		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス部品	2,933	87.5%	2,928	88.7%	-5	+1.2%
トランスミッション部品	361	10.8%	321	9.7%	-40	-1.1%
樹脂部品	39	1.2%	36	1.1%	-3	-0.1%
その他	17	0.5%	15	0.5%	-2	0.0%
合計	3,350	100%	3,300	100%	-50	—

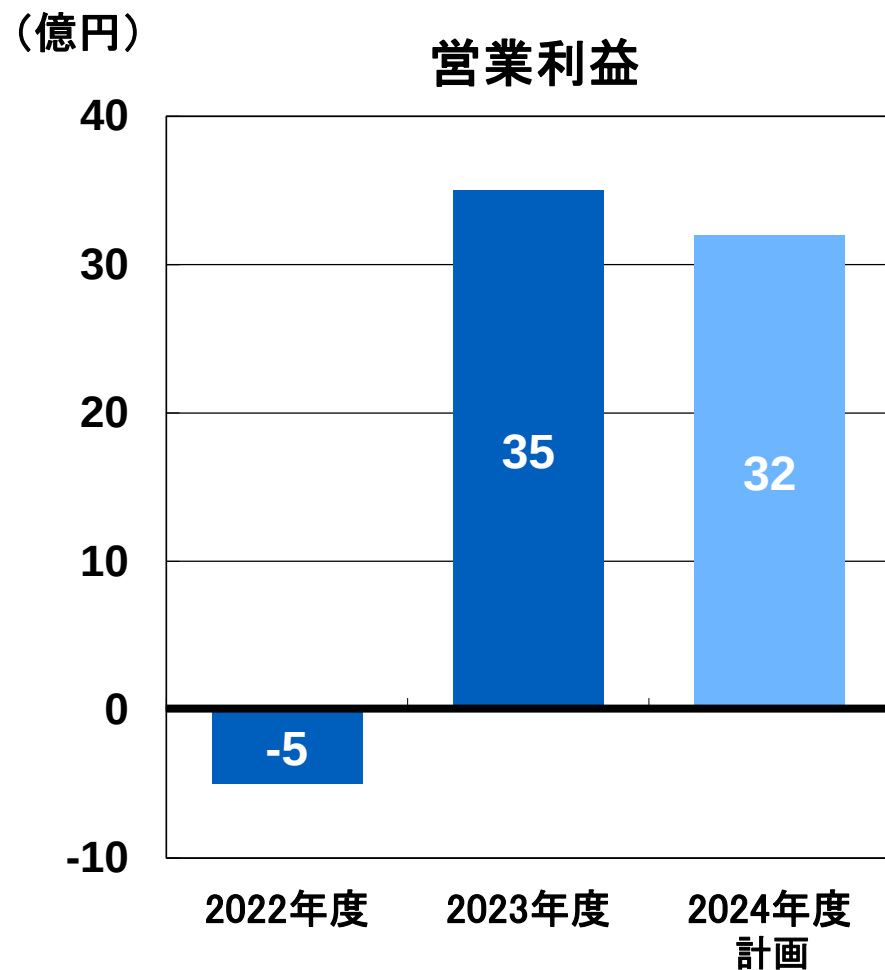
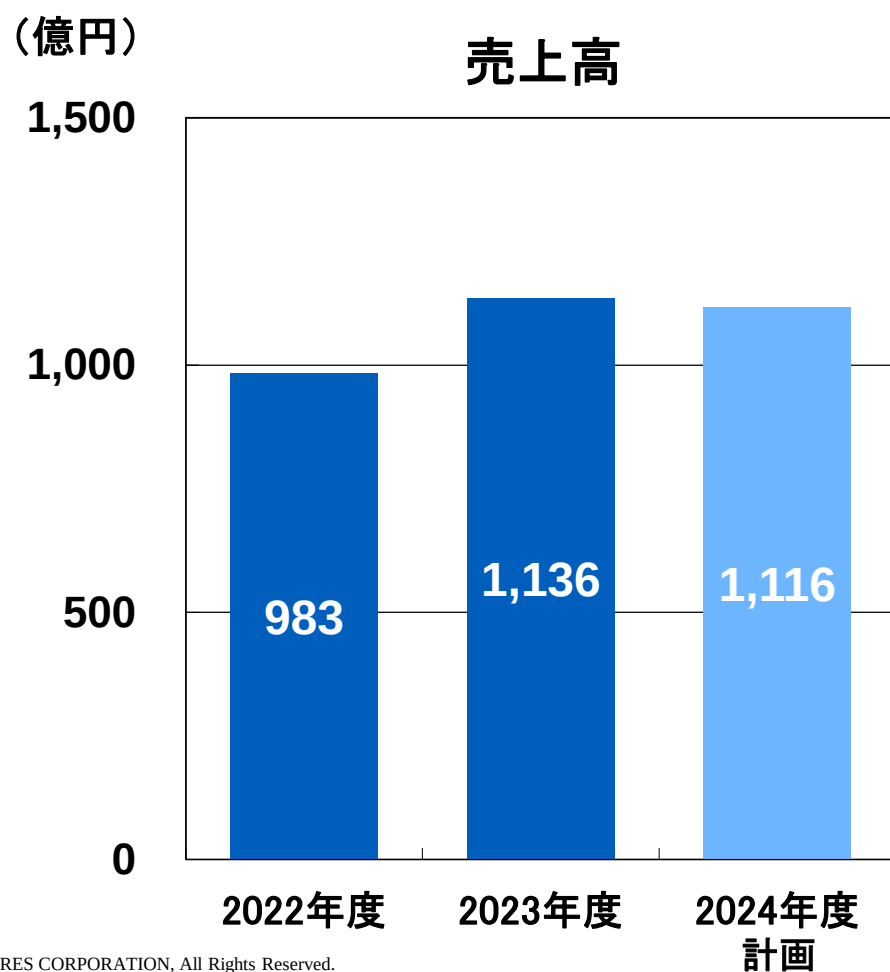
営業利益の増減見通し

(億円)



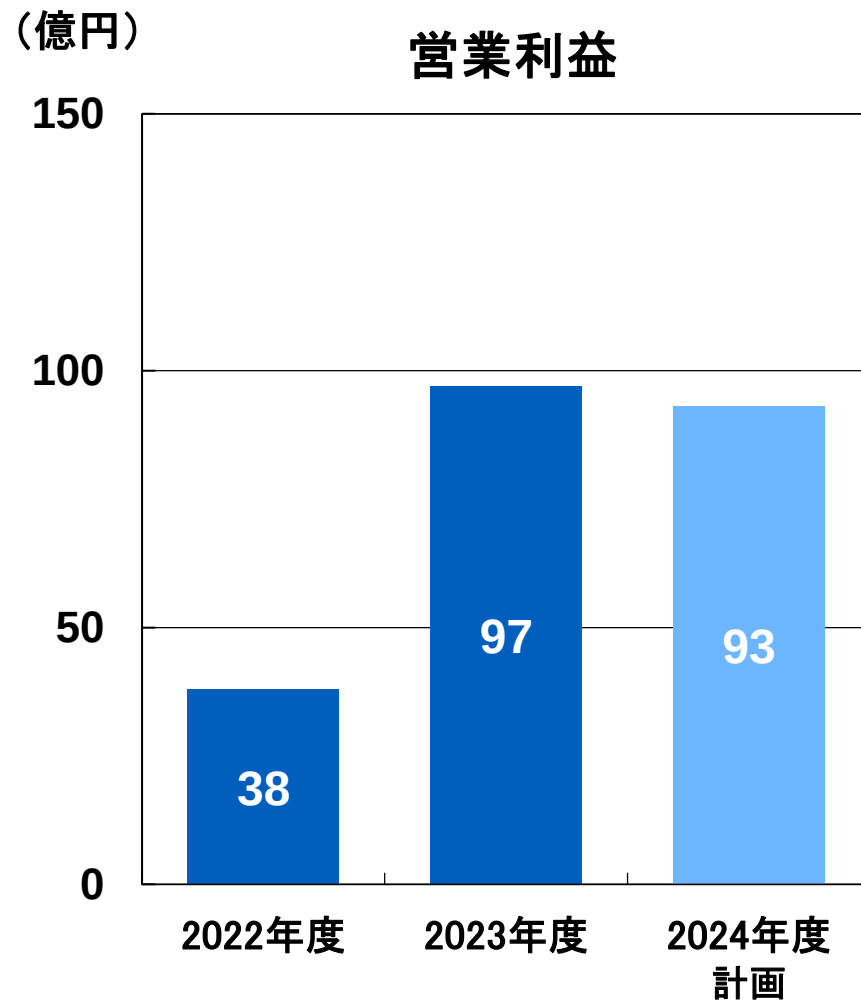
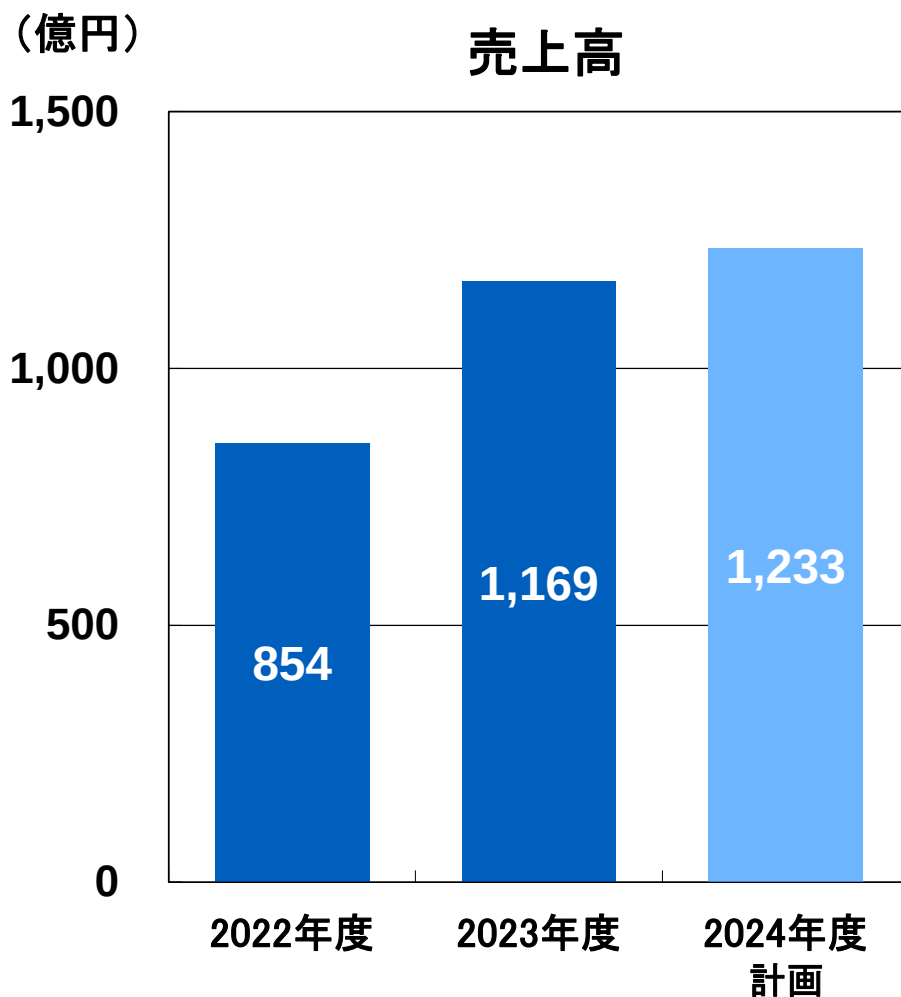
地域別売上高・営業利益(日本)

- 売上高は、減収を計画
- 営業利益は、売上減の影響等により、微減を計画



地域別売上高・営業利益(米州)

- 売上高は、得意先の減産影響があるものの、金型売上の増加等により、増収を計画
- 営業利益は、部品売上の減少の影響等により、微減を計画

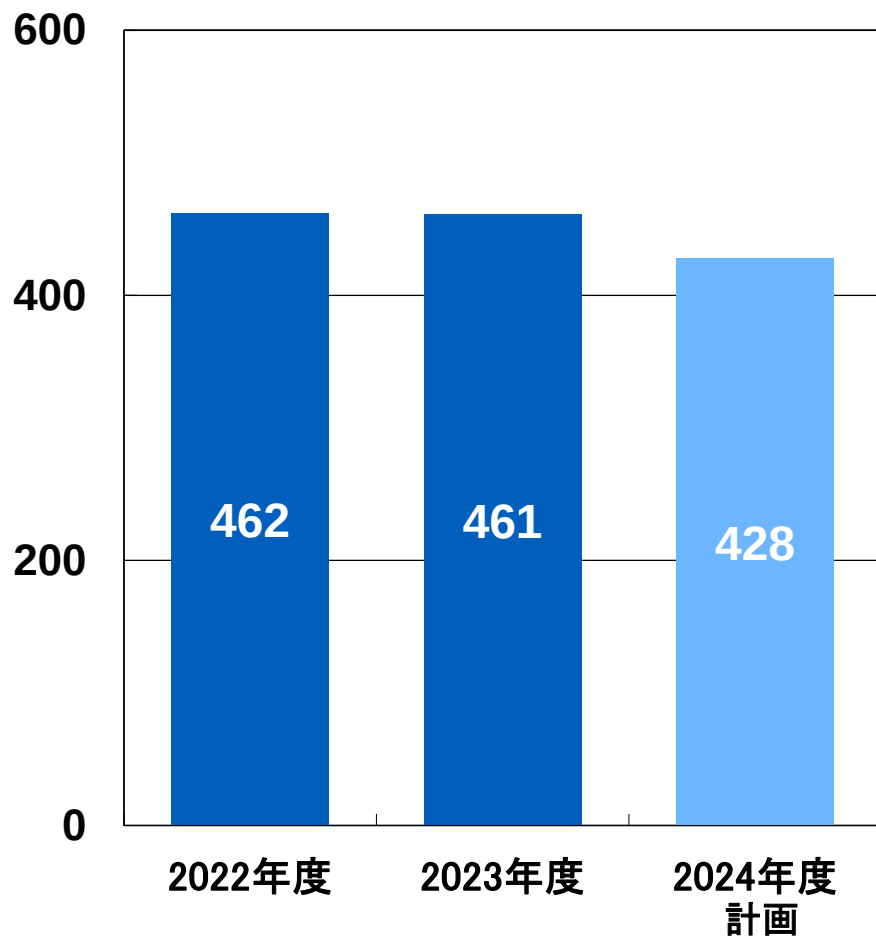


地域別売上高・営業利益(欧州)

- 売上高は、得意先の減産影響等により、減収を計画
- 営業利益は、合理化効果等により、黒字に転換を計画

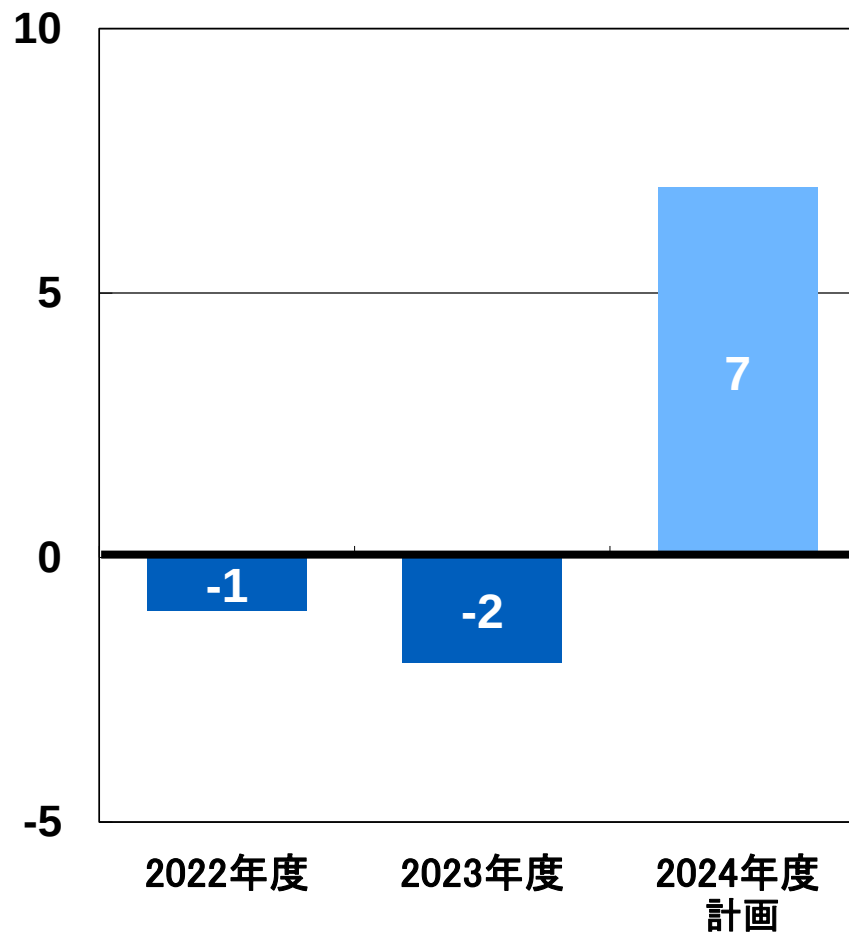
(億円)

売上高



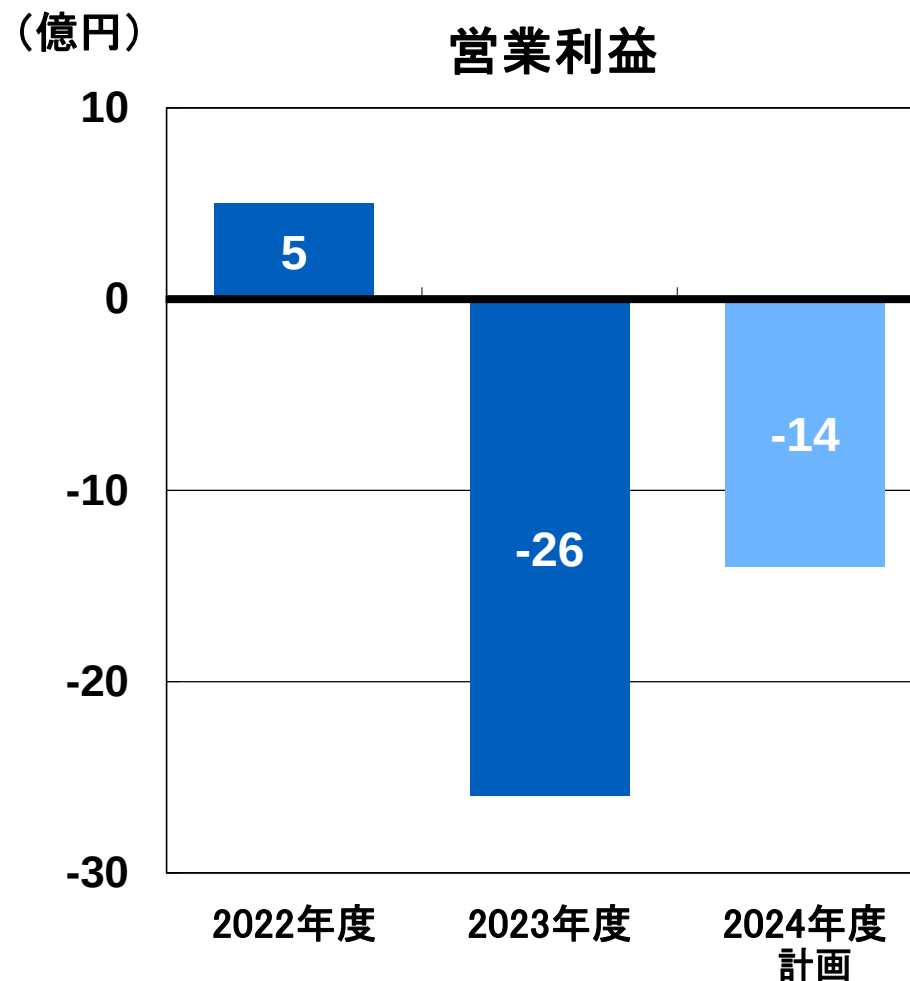
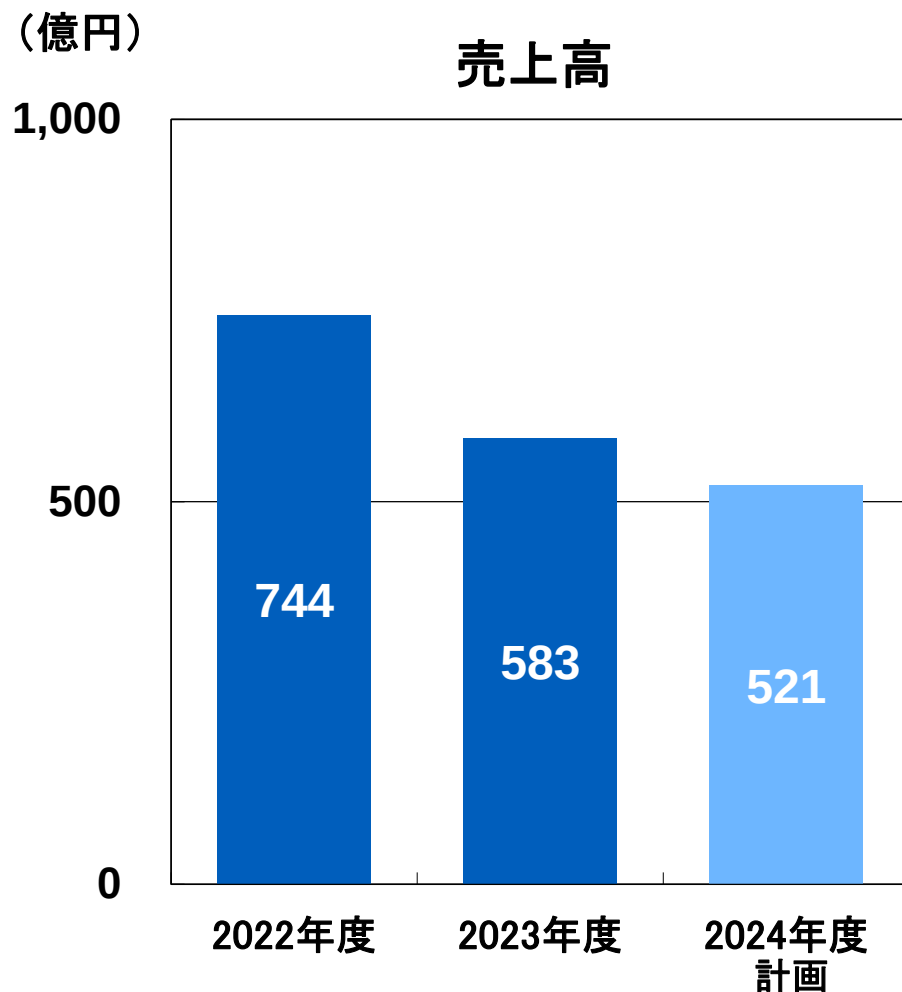
(億円)

営業利益



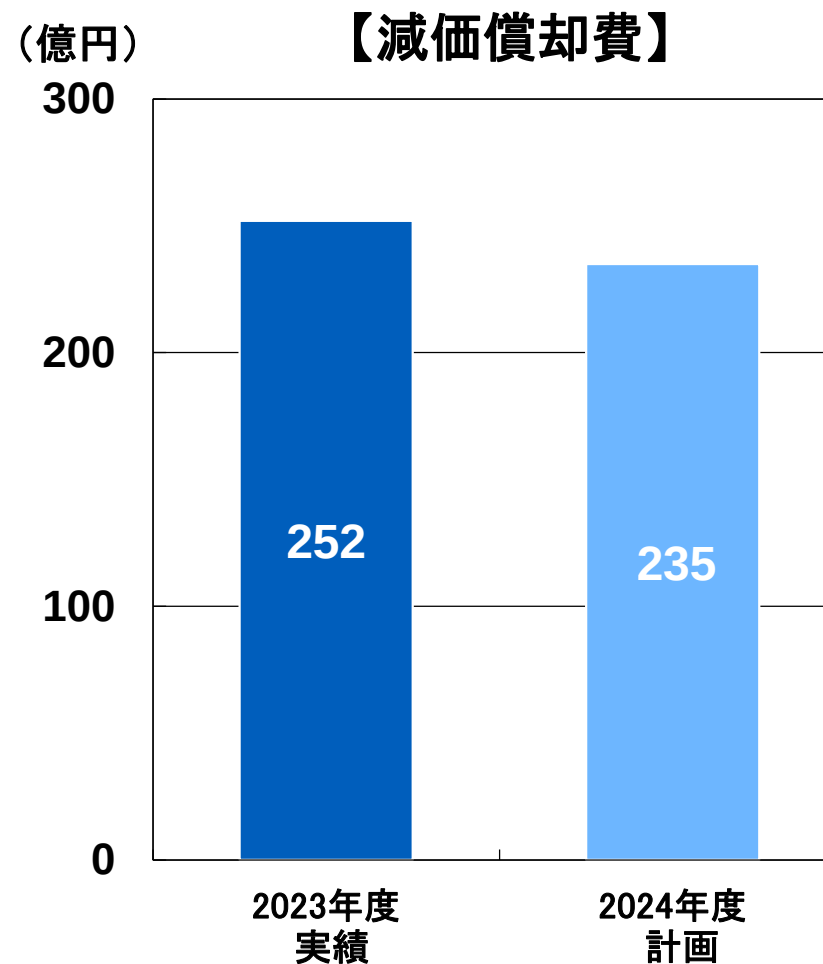
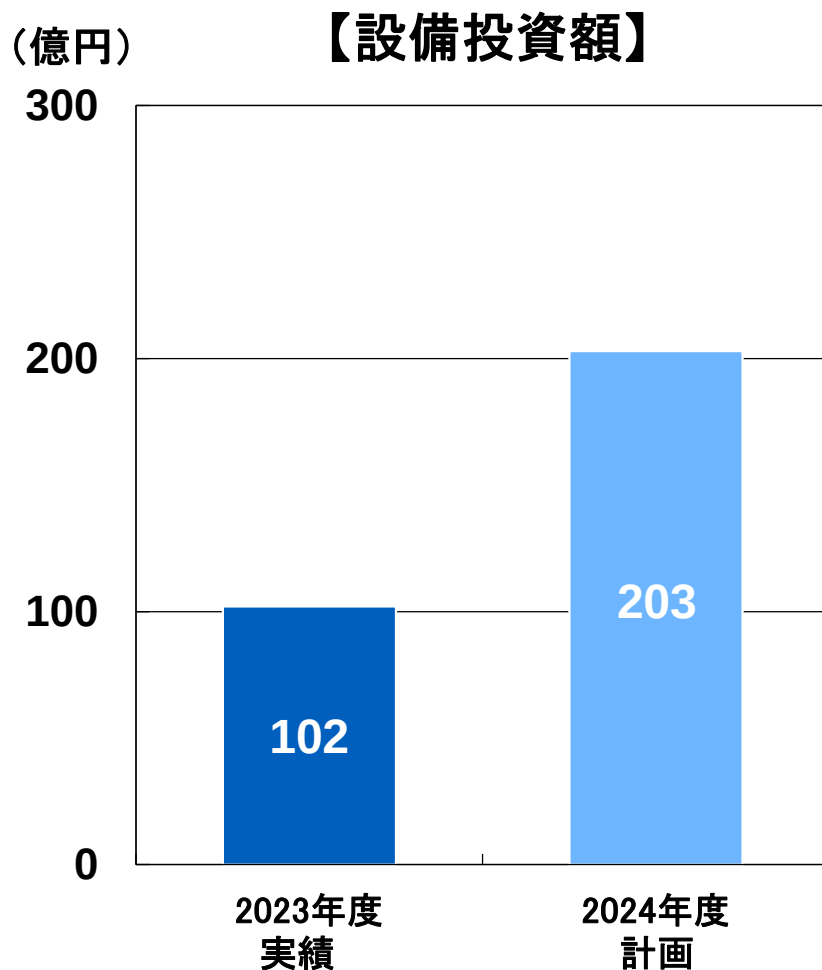
地域別売上高・営業利益(アジア)

- 売上高は、車種構成等により、減収を計画
- 営業利益は、合理化効果等により、収益の改善を計画



設備投資額・減価償却費計画

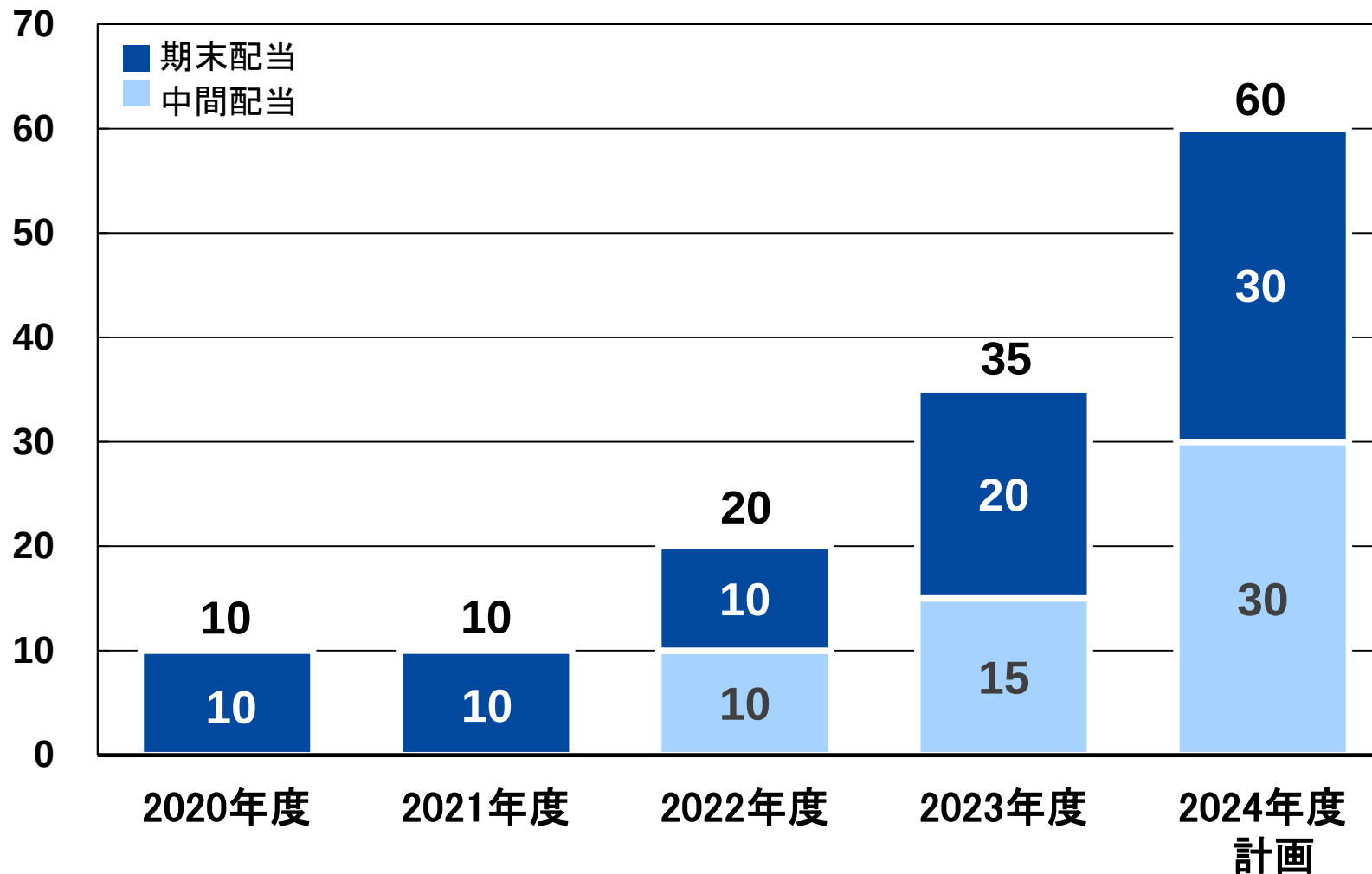
- 設備投資額は、前年度比101億円増加
- 減価償却費は、前年度比17億円減少



配当金推移

- 2024年度は1株当たり60円を計画

(円／株)





2024-2026年度 中期経営方針

— 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて —



現状分析

方針と目標

取り組む施策

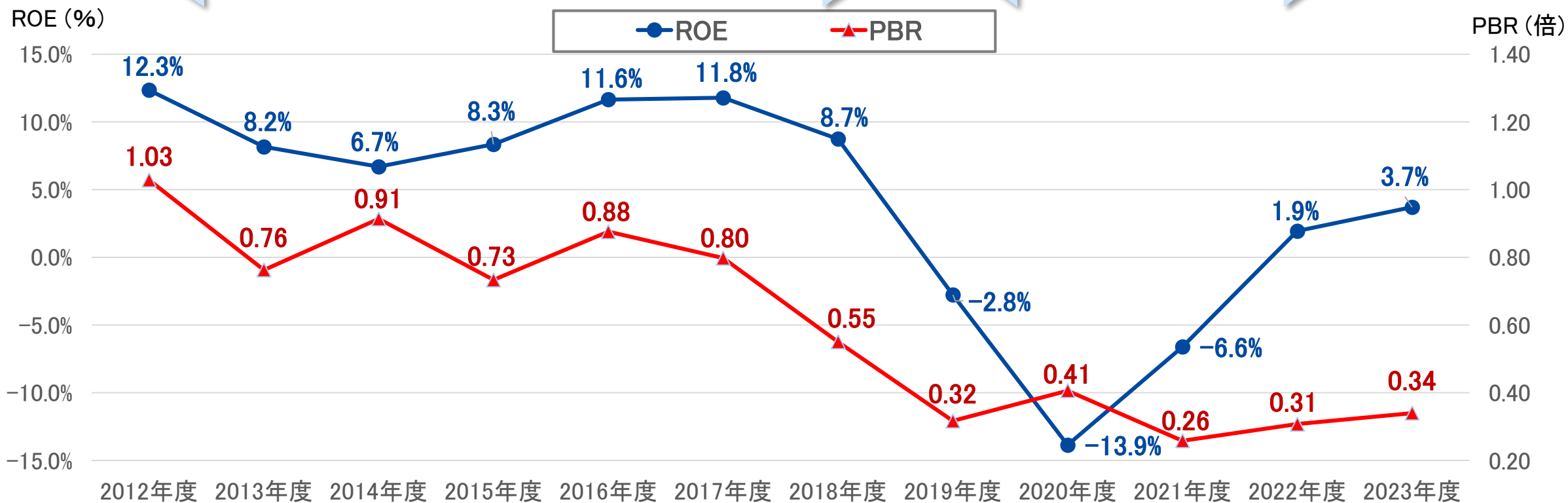


現状分析

収益の回復および自己資本の圧縮が課題

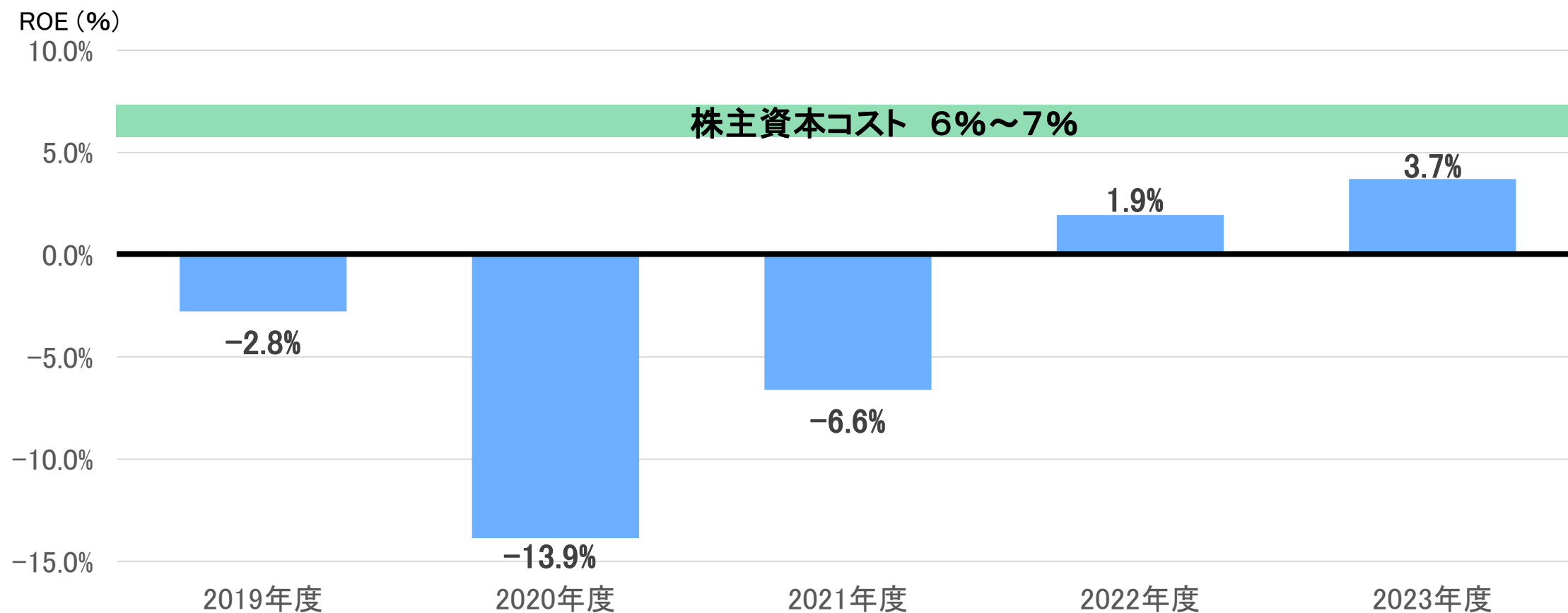
好調な収益、円安の進行により自己資本の拡大

コロナ禍や半導体不足により収益不振



株主資本コストとROEの関係

株主資本コストを上回るROEの達成に向けた取り組みの強化





方針と目標

中期的にROE8%以上を目標に掲げ、PBRの改善を目指す

収益基盤の強化（ROEの向上）

事業戦略

- 戦略的技術開発の推進
- 拡販の推進
- スマート化の推進

財務戦略

- 株主還元の充実
- 収益性を高める資金配分

将来性への市場の信認獲得

非財務戦略

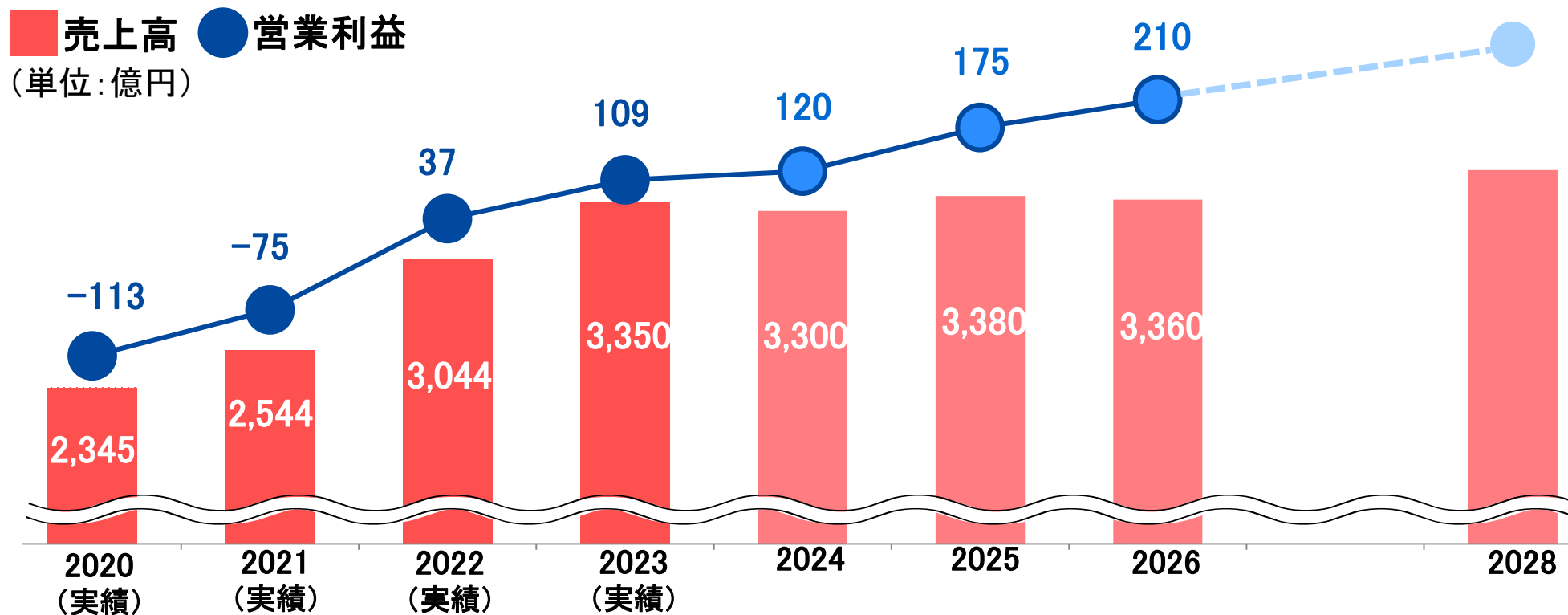
- サステナビリティ経営の推進

株主・投資家との対話強化

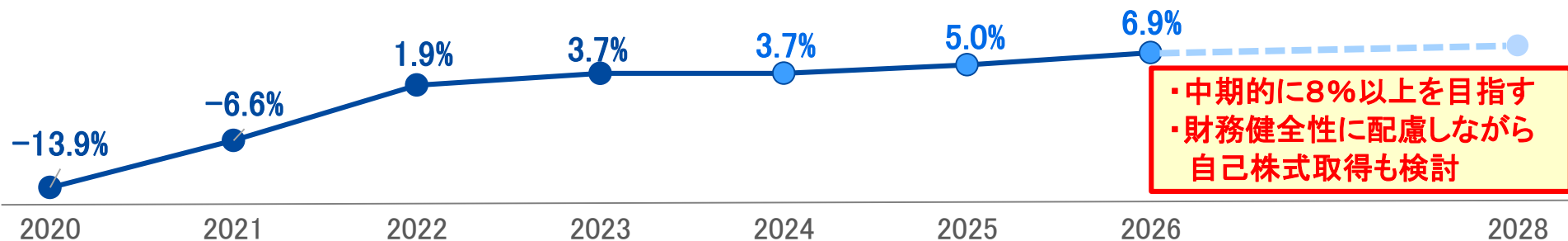
- IR・SR活動の更なる充実

2024-2026年度 中期経営方針 経営指標と目標

売上高
営業利益



ROE

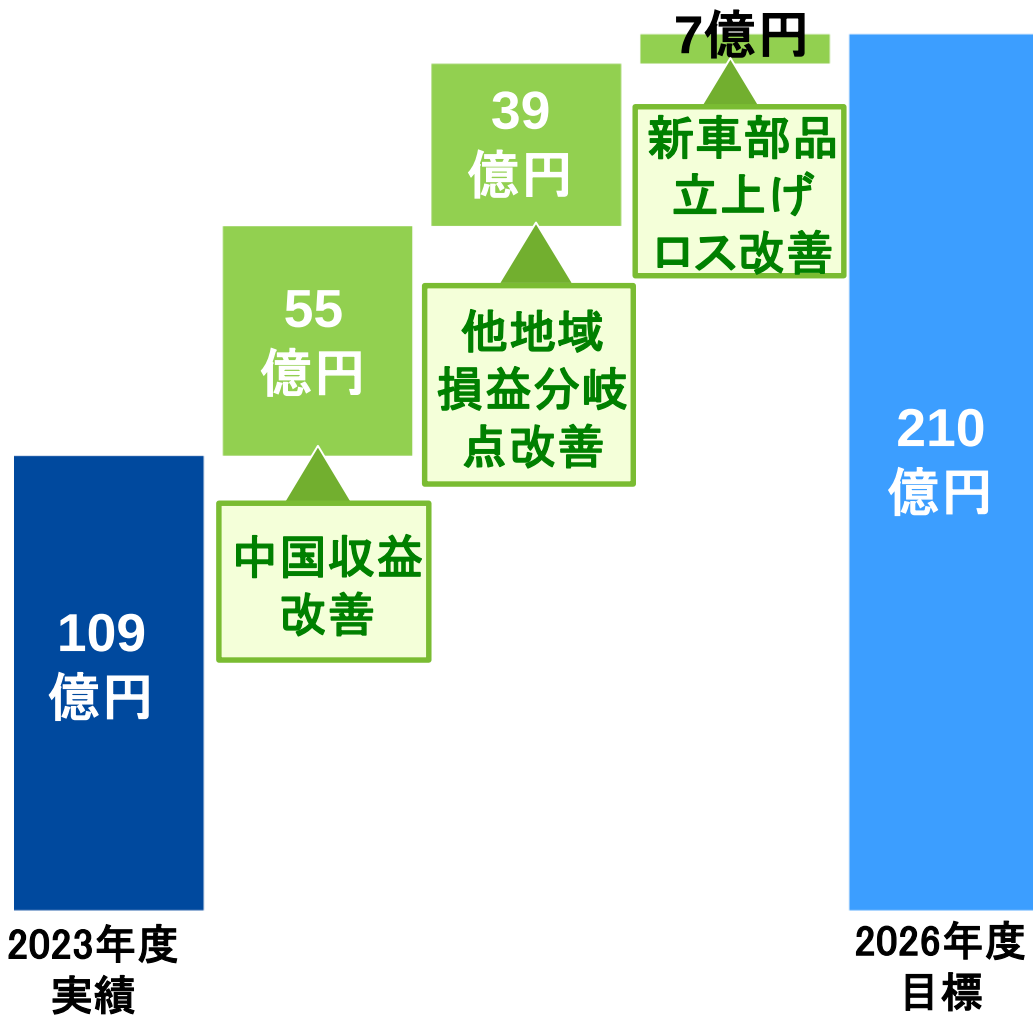




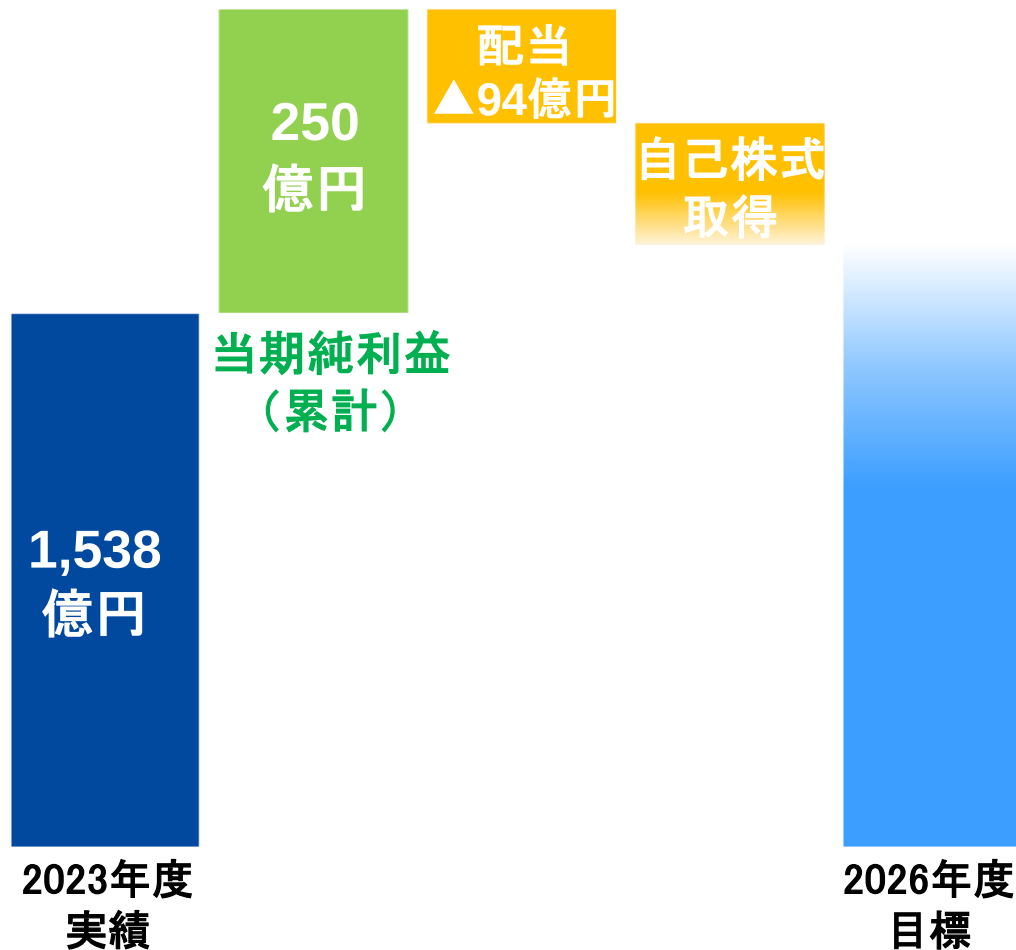
取り組む施策

収益基盤の強化（ROEの向上）

<営業利益の向上>



<自己資本の圧縮>



車体プレス 部品事業

技術開発

最適車体構造提案

- 軽量化・コストダウン
- アルミ対応力強化

拡販

- 新興EVメーカーや部品メーカーを含めた新規取引先への拡販

スマート化

生産部門

- スマート工場の実現

樹脂 部品事業

多機能化

- 新たな機能付与
- 環境に優しい材料

付加 価値 向上

- 日本を中心に拡販を強化

コスト 競争力 向上

データ連携

本社・源流部門

- スマート源流の実現

トランスミッション 部品事業

電動車パワートレイン 部品

- e-Axle構成部品
- 既存部品のプレス化

- カーメーカー、ユニットメーカーへの拡販強化
- 新たな分野への挑戦

外部環境

- ・EV需要は鈍化傾向にあるが、PHEV/HEVを含む電動車の需要拡大は変わらず
- ・バッテリー重量増に起因する燃費・電費向上や衝突性能強化のための軽量化は引き続き大きな課題
- ・ギガキャストへの注目
- ・環境負荷への配慮
- ・電動化の進展に伴うe-Axleの適用拡大

戦略の方向性

車体プレス部品 最適車体構造提案

- 主要取り組み
- スチール部品の更なる高強度化
 - 軽量化部品の開発
 - 車体骨格部品統合
 - アルミ部品対応力の強化

樹脂プレス部品 多機能化

- 主要取り組み
- 新たな機能付与による付加価値向上
 - 環境に優しい材料の適用の開発

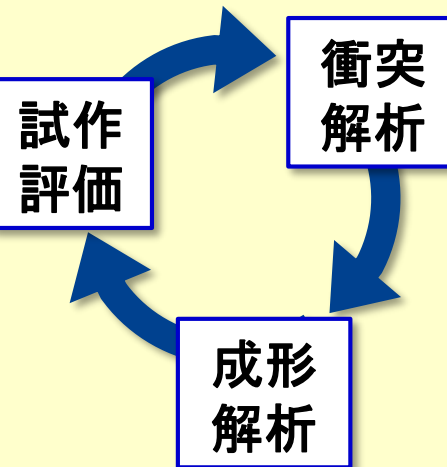
トランスミッション部品 電動車パワートレイン用部品参入に向けた取り組み

- 主要取り組み
- e-Axle構成部品の開発強化
 - 鋳造・鍛造部品のプレス化

市場動向からOEMのニーズをいち早く捉え、自らの戦略を持って
車体構造提案ができる新商品開発モデルを構築中

軽量化・コストダウン
要求に対応する
最適車体構造提案

構造検討体制



スチール部品

- 更なる高強度化
- 軽量化部品開発
- 車体骨格部品統合

マルチマテリアル化

- アルミ部品対応力の強化
(アルミ+鋼板の複合構造)

- 冷間プレス、ホットスタンプそれぞれについて、更なる高強度材の適用を狙い開発推進
- 要求される特性や部位に応じて最適な材料を使い分け

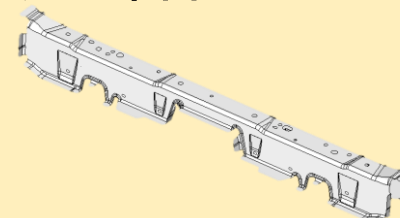
高強度材の適用

狙い	工法	現強度	目標
軽量化	冷間プレス	980MPa ~1.2GPa	1.5GPa
	ホットスタンプ	1.5GPa	2.0GPa

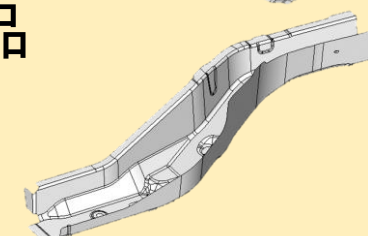
- コストダウンを図るため、必要に応じてホットスタンプから冷間の置き換えを行う

部位ごとの適用

- 強度・延性が必要な部品
⇒ 冷間プレス



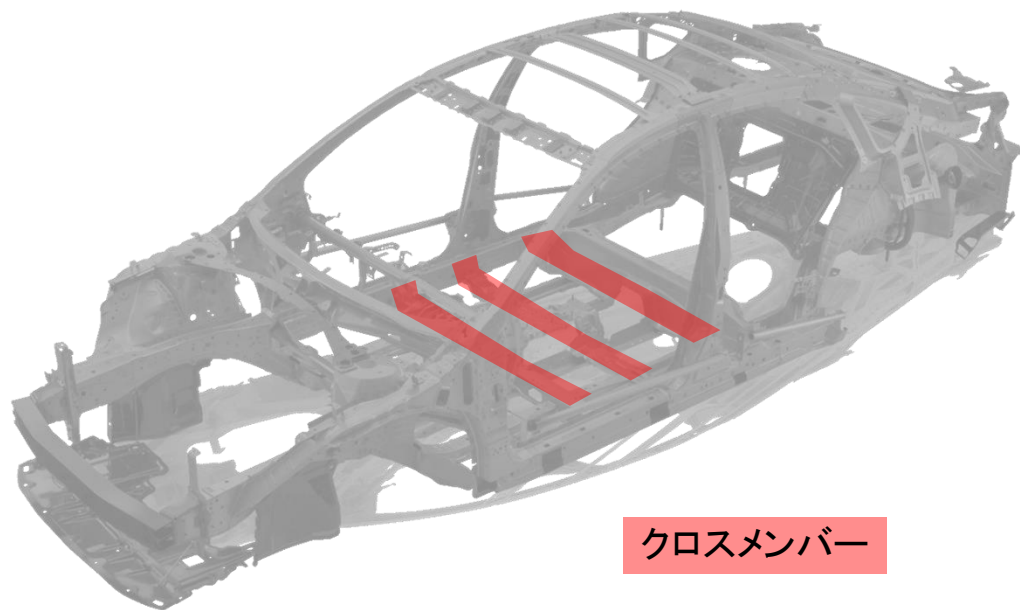
- 強度のみ必要な部品
⇒ ホットスタンプ



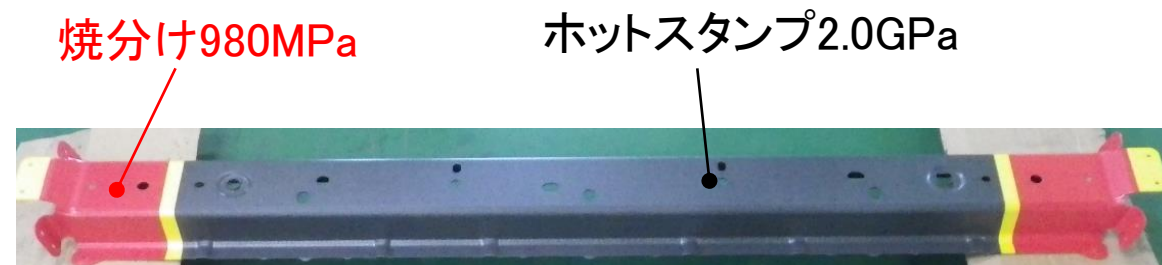
当社独自のホットスタンプ焼分け技術で更なる軽量化部品の提供

赤外線強度分け技術の適用事例

■ クロスメンバーへの適用



クロスメンバー



焼分け980MPa

ホットスタンプ2.0GPa

クロスメンバー (t2.0)

効果

- レインフォース(補強部品)廃止

適用ポイント

- 部品点数削減による軽量化
- 局所軟化で軟化部は自在で、衝突性能における変形モードのコントロールが可能

骨格部品の一体化により、車体の更なる軽量化を図り、
コスト削減にもつなげる

ホットスタンプ骨格部品統合構造の検討事例

一体成形部品(リアコンポーネント)



開発の狙いとポイント

- 軽量化
- 部品統合による組立工程集約(OEM含む)
- プレス工程数削減(金型削減)
- 当社保有設備で生産可能

削減効果予測

	効果
構成部品数	90%削減
重量	30%削減
金型数	80%削減

- マルチマテリアル構造への対応のため、アルミプレス・接合技術を開発
- 現在基本要素技術構築は完了、ダイカスト・押出部品も考慮した組立技術の構築を進め、量産体制への移行を図る

	現在	2024年度	2025年度以降
プレス	成形・解析技術構築 プレス設備仕様検討	量産プレスラインの確立	
組立	接合技術構築 ダイカスト・押出部品の組立技術構築  SPOT SPR FDS MIG 接着剤 組立設備仕様検討	組立パイロットラインの設置	量産組立ラインの確立

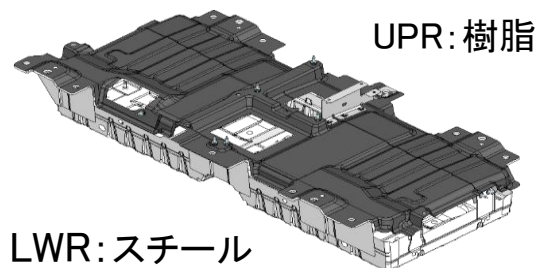
電動車で付加価値が高まる機能の付与と環境に優しい材料の適用の開発を進める

電費向上

軽量化

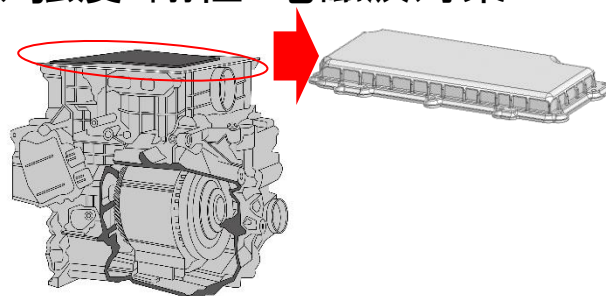
バッテリーカバー

◆難燃要求のクリア



インバーターカバー

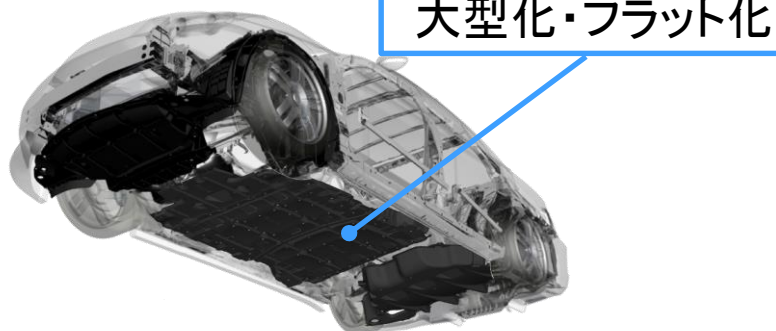
◆強度・剛性・電磁波対策



空力性能向上

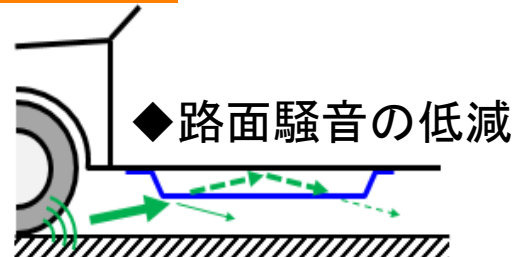
大型フローアカバー

◆軽量・高剛性



音振向上(吸遮音)

吸遮音性能付与



プロテクタフェンダー

フロアカバー

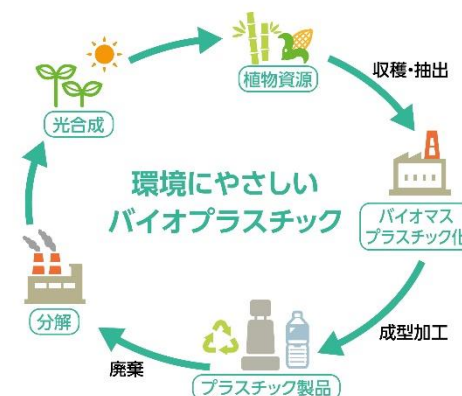


環境対応

環境にやさしい材料の適用

当社樹脂部品への適用

- ・バイオマスプラスチック
- ・生分解性プラスチック
- ・CNFフィラー
- ・リサイクル



- 電動化の進展によりパワートレインがトランスミッションからe-Axleへ変化
- 電動車パワートレイン部品への参入取り組み強化が必要
- 鋳造・鍛造部品のプレス化を武器に既存領域も含め新商品開発を進める

	駆動	トランスミッション(AT/CVT)				e-Axle			燃料 タンク	バッテリー ケース
		トルク コンバータ	クラッチ	キャリア	プランジャ	駆動 モーター	インバータ	ギヤ ボックス		
ICE	エンジン	既存強化領域 ● 鋳造・鍛造部品の プレス化							既存領域	
HEV PHEV	エンジン モーター									
BEV	モーター					新規開発強化領域 ● e-Axle構成部品の開発強化				新規開発強化領域 ● 最適車体構造提案
FCV	モーター									

モーター用ローターシャフトの開発事例

モーターの高回転化に対応した軽量化・冷却性向上に貢献できる中空シャフトを開発中

中実タイプ ローターシャフト

棒鋼の削り出し



約50%軽量化

中空タイプ ローターシャフト

パイプのプレス成形



技術開発とスマート化により戦略的な拡販活動を推進し売上増を目指す

<台当り売上の拡大>

<新規販路拡大>

車体プレス 部品事業

- 最適車体構造提案
 - ・スチール部品の更なる高強度化
 - ・軽量化部品
 - ・車体骨格部品統合
 - ・アルミ部品対応力強化
- 中国地区におけるコスト競争力強化

- 新興EVメーカー【アジア・中国地域】
- 新規OEMメーカー

樹脂 部品事業

- 多機能化
 - ・難燃性バッテリーケース
 - ・軽量大型フラットアンダーカバー
 - ・音振性能アンダーカバー
 - ・環境配慮材料

- 新規OEMメーカー
- 非自動車分野
 - ・汎用カバー類(バッテリーケース等)

トランスミッション 部品事業

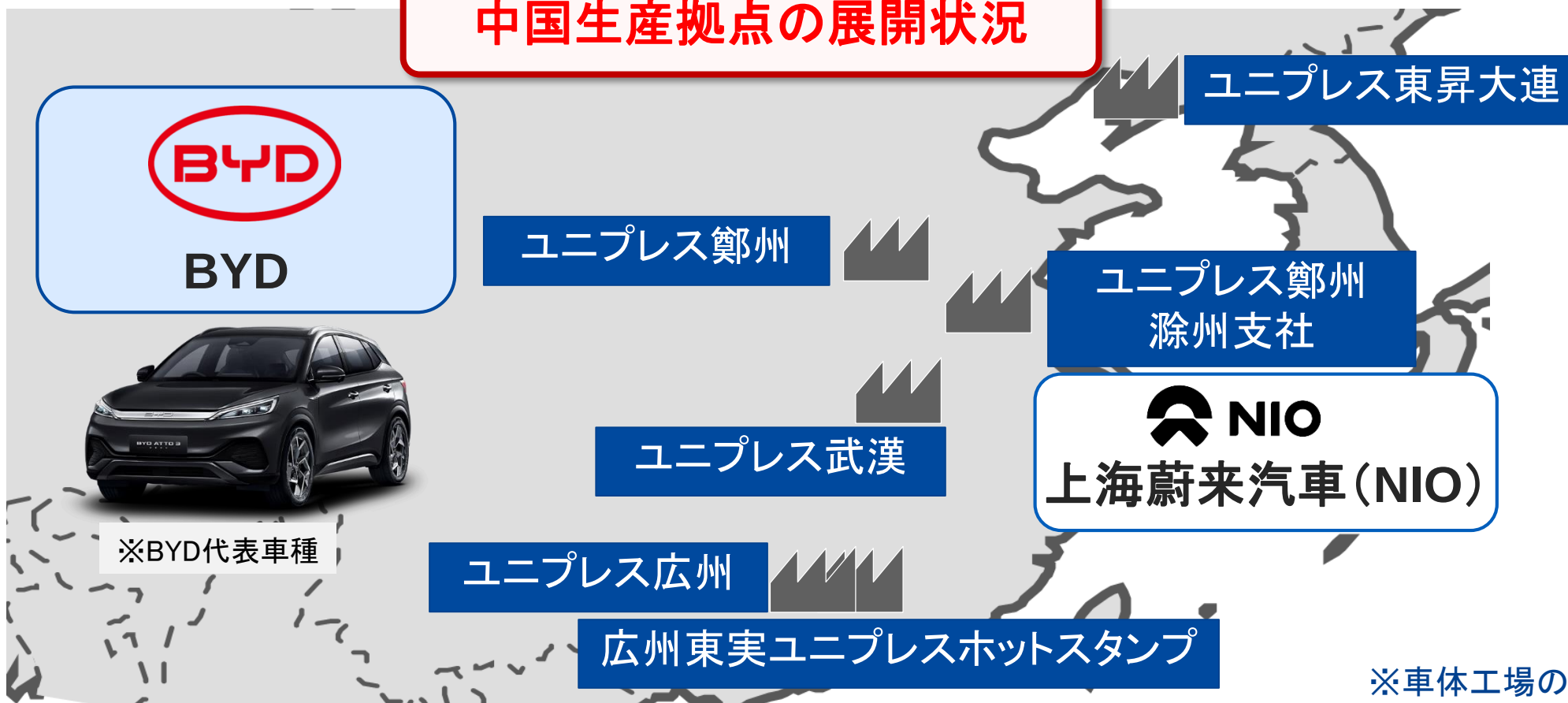
- 電動車パワートレイン部品開発
 - ・e-Axle構成部品
 - ・既存鋳造・鍛造部品のプレス化

- 海外パワートレインメーカー
- 非自動車分野

拡販の推進：中国市場における拡販戦略

- 新興EVメーカーに向けたアプローチを拡大・加速
- 積極的な拡販活動により、BYDとの取引開始

中国生産拠点の展開状況



スマート工場

「最少人数で運営する工場」
＋
「止まらない工場」

スマート源流

本社・源流部門の
情報活用による生産性向上

データ連携

全社スマート化の実現

「最少人数で運営する工場」+「止まらない工場」の実現

省人化・無人化

- ・ライン作業、検査の自動化
- ・搬送、段取り作業の自動化
- ・生産計画、在庫管理の自動化
- ・発注業務の自動化
- ・治工具管理の自動化

稼働率向上

- ・点検業務の自動化
- ・故障からの最速復旧
- ・予知保全

良品率・生産性向上

- ・不良品削減による歩留向上
- ・生産速度の最大化

ロボット化

データ収集・
管理

センシング
モニタリング

AI活用

自律制御

スマート化の推進:スマート工場の目指す姿(鳥瞰図)

モノの流れ



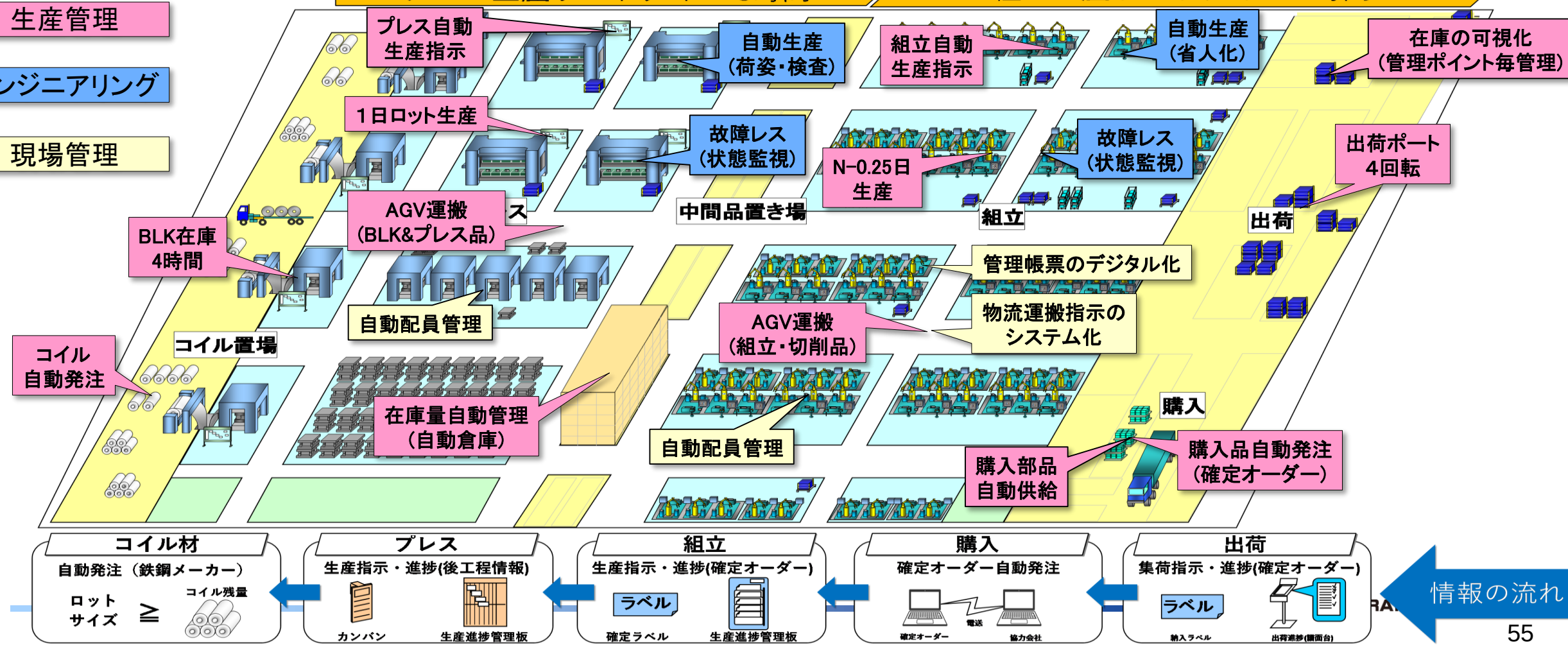
生産管理

エンジニアリング

現場管理

プレス生産リードタイム 8時間

組立生産リードタイム 4時間



「データ活用による生産性向上とリードタイム短縮」の実現

開発・設計

製作・玉成

量産

部品番号をキーにしたデータ収集・連携

- ・工程設計情報
- ・工程企画情報

- ・図面情報
- ・部品・金型スキャン情報

- ・生産・品質実績情報
- ・部品・金型スキャン情報

自動化(RPA、AI活用)

- ・類似部品情報の自動抽出
- ・不具合情報の設計への反映



- ・工程設計・工程企画の自動化
- ・見積・原価算出の自動化

- ・類似部品情報の自動抽出
- ・不具合情報のツールへの反映



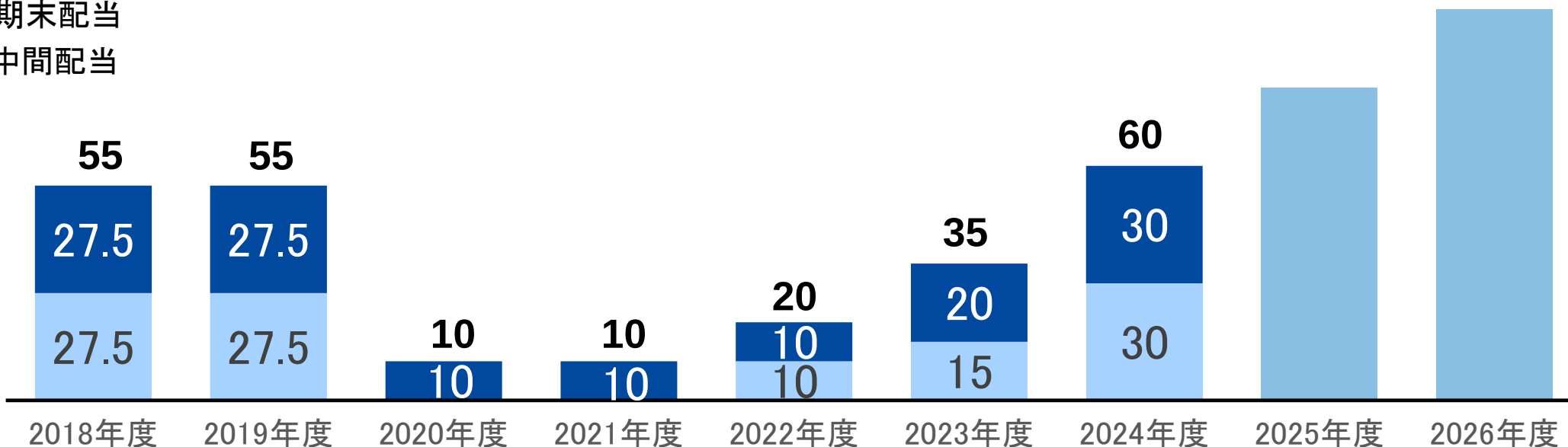
- ・金型設計の自動化
- ・金型玉成の自動化(匠の技)

- ・生産実績情報の管理
- ・品質実績の傾向管理

- 安定的かつ適正な水準の配当を目指し、株主資本配当率(DOE)を意識した配当金とする
- 当面は、DOE2%超を意識し、中期的には3%を目指す

(円/株)

■ 期末配当
■ 中間配当



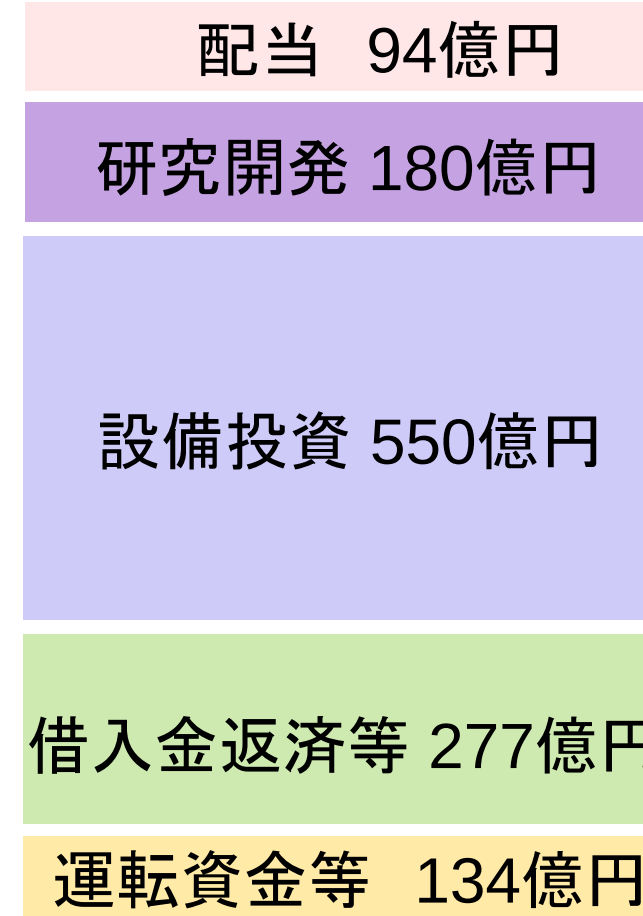
DOE	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	1.8%	1.7%	0.4%	0.4%	0.7%	1.1%	1.7%	当面は2%超を意識	

■ 2024年度-2026年度3年間累計

<キャッシュイン>



<キャッシュアウト>



人的資本への投資

Well-being経営

◆ キャリア

- キャリア充実の施策実施
- 女性管理職比率の更なる向上

◆ 人間関係

- 心理的安全性向上
(全管理職向け研修の実施等)

◆ 経済的

- 賃金制度改定

◆ 心身の健康

- ヘルスリテラシー向上

◆ 地域社会

- 社会貢献活動の拡充

< 個人の成長 >

< 会社の成長 >

企業価値の向上

マテリアリティ中長期目標(2030年度)の見直し

	マテリアリティ	目標・ターゲット
E	気候変動対策	2030年度事業活動で排出するCO ₂ 排出量 <u>30%</u> 削減(2018年度基点) ➡ <u>50%</u>
	環境貢献製品の開発	<車体プレス部品事業> ・更なる軽量化部品の開発および量産車への採用 <トランスミッション部品事業> ・<u>電動車部品</u>の開発および量産車への採用 ➡ <u>電動車パワートレイン用部品</u>
	資源の有効活用	産業廃棄物リサイクル率 <u>70%</u> 以上 ➡ <u>90%</u> [ユニプレス/ユニプレス九州]
S	製品品質向上	納入不良ゼロ
	人権尊重	重大な人権侵害ゼロ
	ダイバーシティの推進	①女性管理職の比率拡大(7%) [ユニプレス] ②海外拠点の上級管理職における現地従業員の比率拡大(60%) [海外]
	サプライチェーン・マネジメント	【持続可能な調達の推進】環境・社会に関する高リスクサプライヤーゼロ
G	コーポレート・ガバナンスの強化	①重大な法令違反ゼロ ②重大な腐敗防止方針違反ゼロ

IR・SR活動の更なる充実

情報開示の強化を含め、IR・SR活動の更なる充実により、
株主・投資家との認識のギャップを埋め、企業価値の向上につなげる

2023年度主要取り組み

- 代表取締役社長をはじめ、工場・生産担当役員、技術担当役員、財務担当役員等による決算説明会を年2回開催
- 積極的なIR・SR面談を実施
 - － 財務担当役員、IR担当役員による機関投資家・アナリストとの個別対話：72回
 - － IR担当役員による議決権行使担当者（機関投資家）等との個別対話：11回
- 対話を通じて把握した株主・投資家の意見は経営層にフィードバックを実施

今後の取り組み

- IRサイトを含むコーポレートサイトの刷新により、情報開示を強化（2024年度公開予定）
- 当社への理解を深めていただくため、技術説明会、工場見学会等の開催を検討



「IR情報メール配信サービス」のご案内

ユニプレスの最新情報をメールでお知らせします。ぜひご登録下さい。

スマートフォンから

二次元コードを
読み取って
登録



パソコンから

ユニプレス
WEBサイト
トップページの
バナーをクリック



一覧を見る >> ピックアップ

» 株主総会・配当・株主優待等

» 株価情報

» IR情報メール配信

» お問い合わせ

(円)

	2022年度 通期		2023年度 通期		2024年度 計画見通し
	期中平均	期末	期中平均	期末	
米ドル	136.00	133.54	145.31	151.40	140.00
英ポンド	162.07	160.01	176.22	180.66	175.00
ユーロ	138.49	141.44	153.14	157.09	150.00
ペソ	6.60	6.81	8.04	8.35	8.10
人民元	19.50	19.02	19.87	19.94	19.50
ルピー	1.69	1.63	1.76	1.82	1.70
バーツ	3.75	3.82	4.06	4.13	3.90
ルピア	0.0088	0.0085	0.0093	0.0092	0.0092

資料取り扱い上の注意

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。

あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。

それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- ・ 主要市場（日本、米州、欧州、アジア等）の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- ・ 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- ・ 為替相場の大幅な変動
- ・ 金融・資本市場における金利等の変動 など